



- 地域に根ざした八潮らしい街並みづくりを目指して -

八潮街並みづくり 100 年運動は、つくばエクスプレスの開業を契機に、まちの様相が大きく変わっていく転換期を迎えていたことから、50 年後、100 年後を見据え、地域に根ざした八潮らしい街並みとなるよう、平成 20 年 4 月に実行委員会を設立し、本運動を展開してきました。

この実行委員会は、市民団体や事業者に参加をいただき、また大学の協力によるまちづくりの各提案を実現化するなど、様々な視点からの取り組みを行ってまいりました。

大きな実績としては、市民の方々が主体的に美しい街並みを構築するための仕組みとして、街並みを構成する戸建ての住宅に着目したガイドラインの策定が挙げられます。

このガイドラインは、実行委員会が 5 大学（建築系研究室）から技術的な面で協力をいただき、平成 25 年度に「やしお家づくりデザインマナーブック」として完成したものです。

この他にも、「会所橋」や「ハンモックベンチ」「水辺カウンター」「鉄塔鉄美写真コンテスト」など、地域資源の活用やまちづくりの提案を、形にすることにより、市民の方々が直接、新しい試みに触れ、魅力的な八潮のまちを体感する機会ができたと感じております。

なお、本実行委員会は、当初の目標としていた、地域に根ざした八潮らしい街並みづくりのためのガイドラインの策定が完了したことから、今年度末をもちまして、発展的に解散となりますが、これまで展開してきた市内での点ごとの活動が、将来に渡り地域に広がっていくことで面となっていく、今後も素晴らしいまちづくりが継続されていくことを期待しております。

結びに、本冊子は、設立から 7 年間を通じて、本運動に関わってきた多くの方々の活動の軌跡をまとめたものであり、発行にあたり本実行委員会の委員をはじめ、幹事会・部会の委員の皆様、協力頂いた大学の先生方、学生の皆様、関係者の皆様の多大なるご尽力につきまして厚くお礼申し上げます。

平成 27 年 3 月
八潮街並みづくり 100 年運動実行委員会
会長 齋藤 勝



CONTENTS/

- | | |
|-------|--|
| 04/44 | 八潮街並みづくり 100 年運動
八潮街並みづくり 100 年運動が始まった背景や概要などについて紹介 |
| 06/44 | 活動年表
八潮街並みづくり 100 年運動での 7 年間の活動における全プロジェクトを紹介 |
| 08/44 | 八潮のまちを知ろう！
活動の土台となったプロジェクト
学生が行ったフィールドワークを紹介 |
| 12/44 | 提案実現化モデル事業
7 年間の活動の中で提案が実現化したプロジェクトやワークショップを紹介 |
| 20/44 | やしお駅前公園プロジェクト
連携 5 大学で 1 年をかけて設計を行った「やしお駅前公園」の紹介 |
| 26/44 | 家づくりプロジェクト
市民の生活と街並みの原点である「住宅」に着目したプロジェクトを紹介 |
| 34/44 | 筑波大プロジェクト
筑波大学 ADP(アート・デザイン・プロデュース) 3 年間の活動を紹介 |
| 38/44 | まちづくりフォーラム
様々なまちづくりに関する取組みの普及啓発事業としての「まちづくりフォーラム」を紹介 |
| 40/44 | 運動を振り返って
7 年間の活動を先生が振り返る
今までの活動参加者も紹介 |

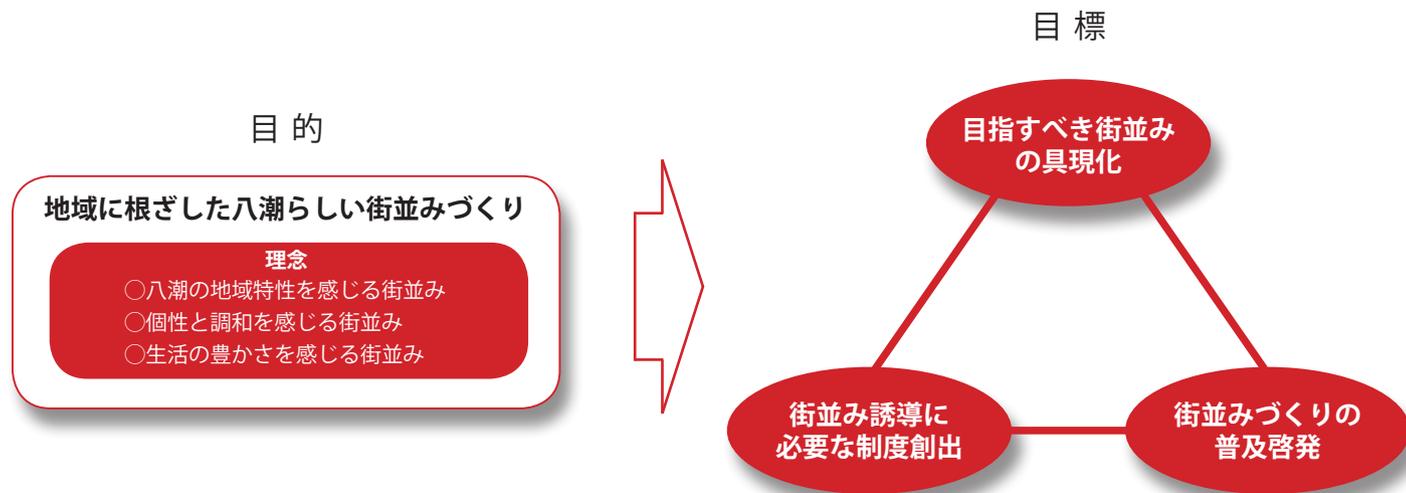
八潮街並みづくり 100 年運動

運動の背景

八潮市では平成 19 年 3 月に八潮市景観計画を策定し、一定規模以上の建築物における景観誘導による良好な景観形成を推進してきた。しかし、規制型の街並み誘導には限界があり、美しい街並み景観づくりの一層の推進を図るためには、市民が主体的に街並みを創り出そうという意識をもち、自ら実行することが重要な課題であった。

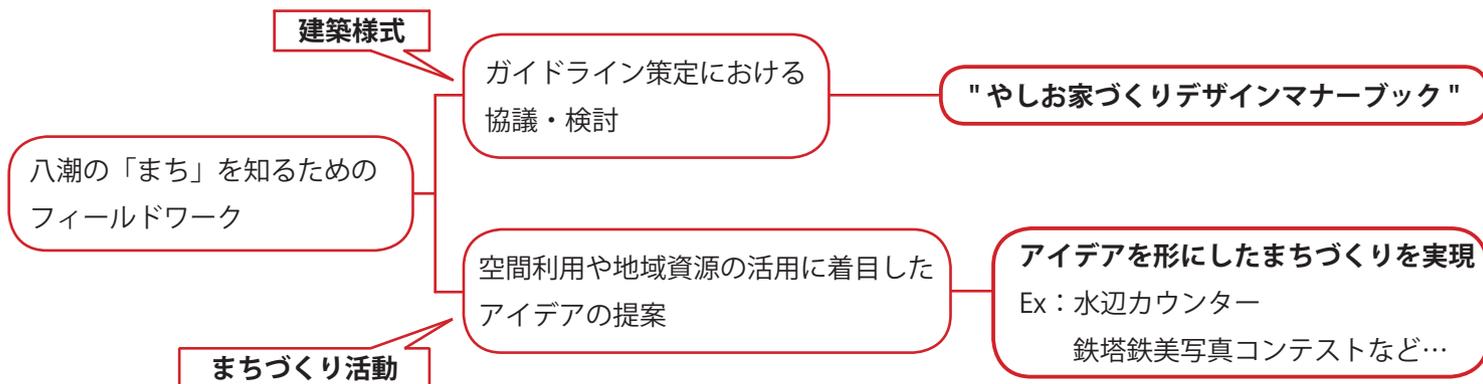
このことから、市民の共通認識を得られる「八潮らしい家づくりのガイドライン(基準)の策定」等による新たな街並みの誘導策が必要であると考え、平成 20 年に八潮街並みづくり 100 年運動実行委員会を発足し「八潮街並みづくり 100 年運動」を推進してきたところである。

八潮街並みづくり 100 年運動概要

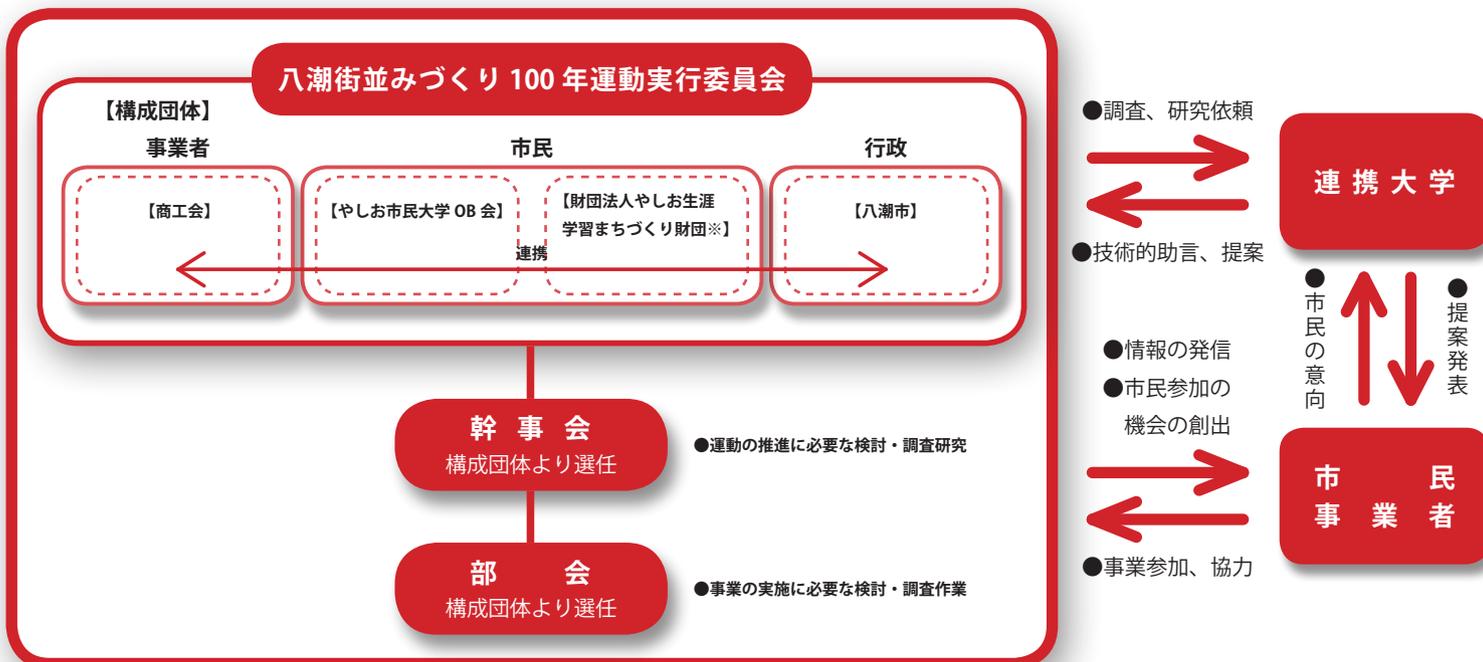


八潮街並みづくり 100 年運動は、50 年後、100 年後を見据え、この街に住んで良かったと思えるような、八潮らしさを活かした魅力ある街並みをつくるための運動である。将来に誇れるような街並みをつくるためには、市民の主体性を促すような新たな取組みが必要であると、市街地における街並みを構成する戸建て住宅のガイドラインの策定や、制度の創出等を最終的な目標とした。

八潮街並みづくり 100 年運動プロセス



【組織体系図】



※財団法人やしお生涯学習まちづくり財団は平成 25 年 3 月 31 日をもって解散している

活動年表

	2008	2009	2010
八潮のまちを知ろう!	フィールドワークプロジェクト Fieldwork Project		
提案実現化プロジェクト			
やしお駅前公園プロジェクト			公園設計ワークショップ Park Design Workshop 2010.6.19 - 9.19
家づくりプロジェクト	ジュニアワークショップ Junior Workshop 2008.9.14 - 9.15	第1回家づくりスクール "Ie Zukuri" School 2009.6.6 - 11.21 八潮らしい住宅モデル "Yashio rashii" House Model 2009.7.25 - 11.22	
筑波大プロジェクト			八潮アロハ "Yashio Aloha" 2010.8 - 2011.2 しよくにんインタビュー "Shokunin" Interview 2010.9 - 2011.2 八潮トイレンナーレ "Yashio Toirrenare" 2010.10 - 2011.2

2011	2012	2013	2014
<p>やしおのツカイカタプロジェクト "Yashio no Tsukaikata" Project 2011.4 - 2012.3</p> <p>会所橋 Kaishobashi 2011.12 - 2012.3</p> <p>クールビズポロシャツ "Cool Biz Poloshirts" 2011.5 - 9</p> <p>夜市 (ブース出展) "Yoichi" 2011.7 - 9</p> <p>鉄塔鉄美写真コンテスト Photograhpy Contest 2011.10 - 2012.2</p>	<p>やしおのツカイカタプロジェクト "Yashio no Tsukaikata" Project 2012.4 - 2013.3</p> <p>きおくのまち WS in 八潮 Kioku no Machi WS in Yashio 2012.10.28</p> <p>第2回 家づくりスクール "le Zukuri" School 2012.6.6 - 11.21</p> <p>クールビズポロシャツ／缶バッジ "Cool Biz Poloshirts"/"Can Badge" 2012.5 - 7</p> <p>鉄塔鉄美写真コンテスト ~夏の陣~ Photograhpy Contest 2012.7 - 11</p> <p>下妻街道の旅 A Travelling of "Shimotsumakaido" 2012.11</p>	<p>ハンモックプロジェクト Hammock Project 2013.7 - 2013.11</p> <p>水辺カウンター Water Side Counter 2012 - 2014.5</p> <p>やしお家づくり デザインマナーブック Yashio le Zukuri Design Manner Book 2013.4</p> <p>T邸プロジェクト "T House" Project 2013.6 - 10</p>	<p>街の記憶展 "Memories of Town" Exhibiton 2014.8.24</p> <p>やしお駅前公園 Yashio Station Park 2010.6.19 - 9.19</p>

八潮のまちを知ろう！

プロジェクト概要

このプロジェクトは、八潮市において推進すべき「八潮らしい街並みづくり」に向け、八潮の特性を活かした住環境設計プロジェクトを提案するとともに、その中から、街並み景観に大きく影響を与える建築物に着目し、共通する建築様式(コード)を抽出し、素案を策定することを目的としている。5大学の研究室による多くの意見を取り入れるために、唯一「八潮の街並みの特徴をつかむ」という方針を設定するに留め、自由な調査を行うこととした。その結果、ヒューマンスケールの視点や、エリアを対象としたマクロな視点、市民の生活実態を対象とした視点など、様々な視点からの調査が行われた。

2008

フィールドワークプロジェクト

Fieldwork Project

2008.5.31 - 9.15

第1回ワークショップ

1st Workshop

2008.5.31 - 6.1

茨城大学	現地調査から6つの景観要素を抽出
信州大学	八潮市を3地域に分けて調査
東北工業大学	八潮市の4つの特徴ある風景(地区)をとらえる
神奈川大学	スケールの違う4つの特徴をつかむ
日本工業大学	北部、東部、西部、駅周辺の地域別に特徴を発見

第2回ワークショップ

2nd Workshop

2008.7.19 - 7.20

茨城大学	「畑プロジェクト」「場所探しプロジェクト」などのプロジェクトを提案
信州大学	用途地域、用途地域の境界、交通動線の境界などで起こっていることの調査
東北工業大学	TX沿線の調査を行う
神奈川大学	「住・農・工の混ざり合い」のもと、「奥行き」「境界」などの5項目について調査発表
日本工業大学	「水路両脇にあるフェンスの使い方に関する視点」などの4つの視点を発表

景観調査から八潮の「要素特性」を抽出

水路

- ・市内に無数に張り巡らされており、重要なインフラとして捉えられている
- ・住宅と工場に挟まれた水路空間は、街のバッファゾーン(緩衝地帯)となっている
- ・水路際のフェンスの多様な利用方法が独特である
- ・住宅の間に水路が多く通っており、住宅と水路の一体的利用が見られる

高架

- ・八潮に存在する大きな構造体である
- ・TXの高架のスケールを、住宅のスケールと近づける必要がある
- ・様々な用途地域を分断しているが、空間を介して要素同士を繋いでいる

広域農地

- ・八條地区に広がる広域の農地(田畑)は、自然の風景を残す意味でも重要なエリア
- ・中川遊歩道から広がる堤防沿いの風景(中川・農地など)は、八潮市で最も雄大な風景

河川

- ・河川や用水は、八潮の市民にとって身近に感じる場所
- ・水辺へのアクセスが悪く、そのポテンシャルを発揮できていない

鉄塔下

- ・市内には100本以上の鉄塔が立っている。しかも八潮市の地形が平坦であることや、高層の建築物があまりないこともあり、どこからでも見つけることができる

未利用地

- ・放置されたように見えて、実際には近隣住民の生活の中で活用されている緑地が多い
- ・駅南側の色々な場所で大小様々な盛土が見られる

第3回ワークショップ 3rd Workshop

2008.9.13 - 9.15

- | | |
|--------|---|
| 茨城大学 | 八潮の魅力を引き出す5つの「みち」に対しての提案を行う |
| 信州大学 | 八潮市の音を「交通音」「自然音」「工場」「営み音」「雑多音」の5つに分類 |
| 東北工業大学 | 4つのテーマに限定し「八潮らしい風景」を目指した提案を行う |
| 神奈川大学 | 「八潮のランドマーク」「八潮のスキマ」「変形敷地」「工業的ディテール」の4項目について発表 |
| 日本工業大学 | 八潮の特徴や変化を利用した提案を行う |

まちづくりシンポジウム "Machi Zukuri" Symposium

2008.9 -

各大学がこれまで行ってきた景観調査を元に様々な提案を行う

フィールドワークは続いていく

用途混在

- ・住宅、畑、工場が隣接している場所が市内に点在しており、この点在する3点セットは、ほぼ同じスケールのものとなっている
- ・上の階が住宅で、下の階が工場や商店のような住宅が多い。特に下の階が工場となっている物件が多く、工場誘致を進めてきた市の施策を伺うことができる

工場製品

- ・一般的には使用されない材料(単管、H鋼など)が住宅や街中で使用されており、街並みにも溶け込んでいる

変形街区

- ・余剰空間や、変化がある入り組んだ街区は、空間的に路地のような面白さがあり、新たな街並みの可能性を感じる
- ・市内には、三角形や台形など変形した敷地が多く存在する。これらは、旧街道をはじめ高速道路や鉄道などが、市内を斜めに縦断していることなどから発生している。

人の往来

- ・八潮市は4つの市や区に囲まれた内陸の市であり、市内外の人々が、様々な目的により市内から市外へ、市外から市内へ移動する

混在する音

- ・八潮市は土地利用が混在しているように、工場の音、水の音、子どもたちの声も混在し発生する

街並みをつくる要素を抽出

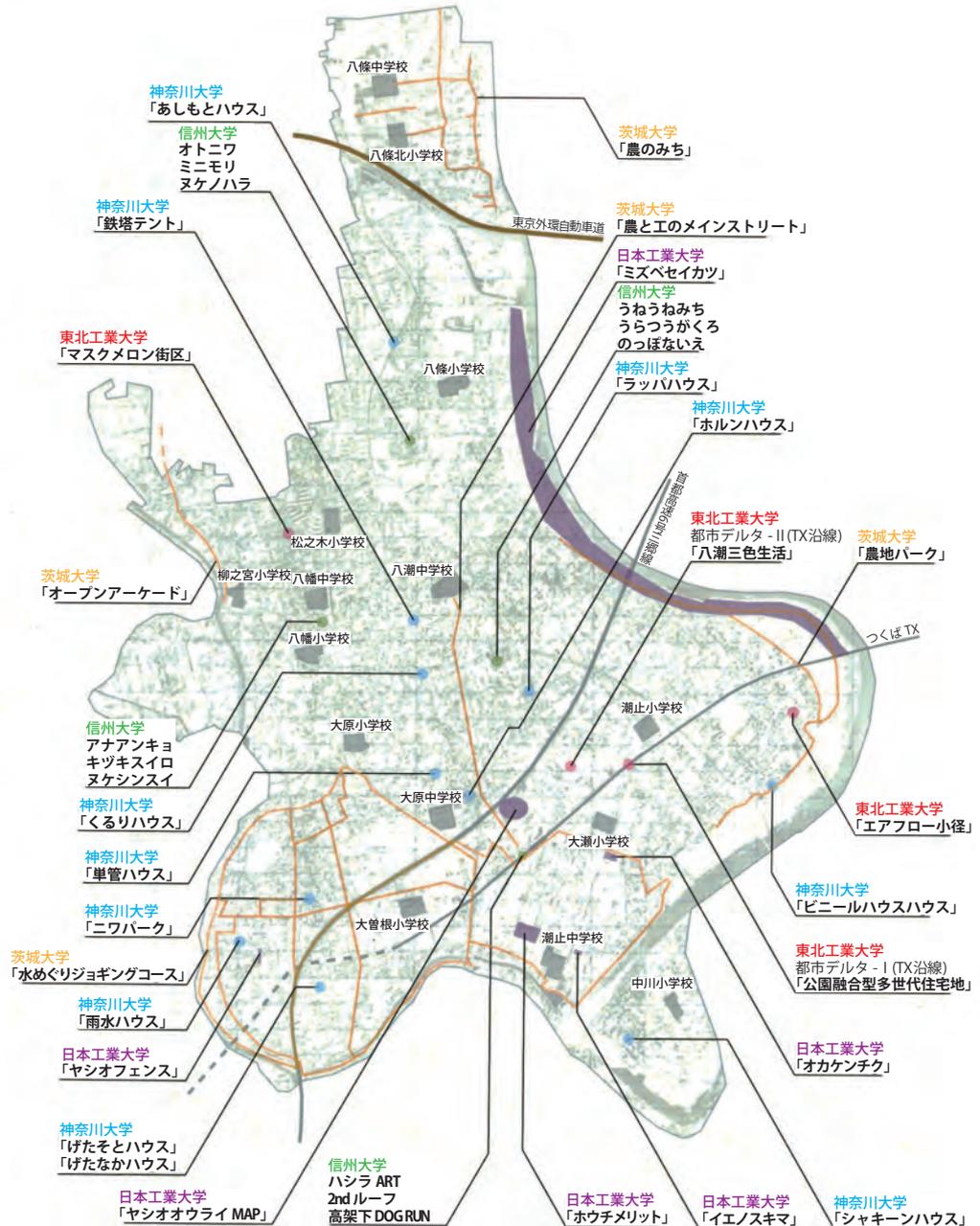
各大学によって行われた景観調査から街並みをつくる要素を抽出し、それらを基に八潮全域にかけて様々な提案が行われた。

多角的な視点を取り入れるために、各大学の方針に基づき自由な研究を行うことにした。その結果、同じ要素を抽出しても、全く逆の発想からアプローチした提案などが現れた。

研究は住宅自体を利用するものから広域的な範囲を利用するものまで、スケールの違う様々な分野で行われたが、大きく3つに分類できた。一つ目は提案型である。これは要素に色々な仕掛けを施すことで、要素を印象的な存在にする方法。二つ目が創出型で、これは要素を最大限に利用又は活用するために、周辺の環境や景観自体を創出する方法である。三つ目は、提案型と創出型を同時に利用する複合型である。これらの手法を利用し、最終的には39の提案が挙がった。

建築様式の素案

建築様式(コード)とは、街並み形成を図るため、該当する区域内における建築物の敷地、構造、形態、意匠などに関して一定の基準化をすることである。しかし、八潮市の場合には、市民のコンセンサスが得られる、古くから継承された街並み等が存在しない。そのため、調査から抽出された要素に視点を置きコード化を進めた場合、これらの組み合わせだけに着目した「建築物」が普及し、本来の趣旨である地域性を活かした街並みとの関係性=家づくりの作法が見失われる恐れがあることがわかってきた。



▲提案されたものをまとめた八潮市の地図

住宅と街路の共存



水路という存在を住宅に反映させるのではなく、住宅と水路を共存させ、お互いがなければ存在しあえない関係性をつくることで、八潮らしいより良い環境を目指す。水路と敷地は様々な位置関係があるが、あくまで「水路との共存」をテーマとした家づくりを目指すことが、将来の八潮の街並みをつくる上で重要である。

森の中の街



鉄道高架から見える敷地に高木を植樹することで、八潮市東部に広がる広域農地から連続した緑を生み出し、森の中の街を演出する。鉄道高架という構築物は、街並みの要素としてはスケールが大きすぎる。しかし、視点を変えて鉄道高架から見渡したとき、高木が住宅を隠すように生えていたら、まるで森の中に街があるような感覚を引き起こすかもしれない。

歩行者と住宅の目線



中川や綾瀬川、圀川などの河川が市内を通る八潮市では、これらの河川沿いに様々な風景が広がっている。こうした水辺の空間を歩行者空間として充実させ、住宅とのアクセスも考慮することで、多様な水辺の風景を楽しむだけでなく、市民の健康、そしてコミュニティを育む場となる。

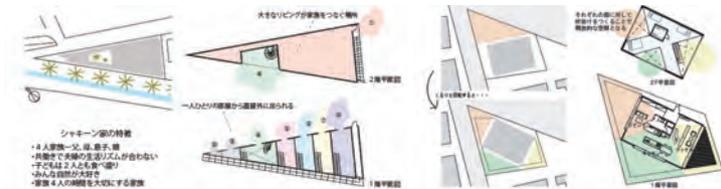
家と空地



街区単位の開発を行う場合は、どの宅地からも空地が見えるようにする。空地をつくることで、住宅からの視線が通り、コミュニティーの場としての利用価値が高まることが期待できる。このことは、現代の問題でもある近隣住民との付き合いの希薄さを解消してく上で、大きな可能性を秘めていると言える。

変形敷地

市内には変形街区がいくつか確認できるが、ここに住宅を設計する際には見通しの良い住宅配置とすることで、より良い環境づくりを目指す。変形街区では敷地に応じた建築形態となることが多いが、「敷地外からの視点」を取り込む家づくりは、変形敷地が多く存在する八潮にとって欠かせないテーマである。



用途混在



未利用地



工業製品



鉄塔



提案実現化モデル事業

プロジェクト概要

「八潮街並みづくり100年運動」では、フィールドワークから得られた八潮にある利用可能な材料や八潮らしい敷地などに、様々な提案を行い実現化してきた。市民から疎遠となってしまった用水路沿いの休憩スペースや、また工場の活動が八潮の市民にもっと受け入れられるようになる方法等の提案を検討した。また、市内の工場から出る廃材を利用してハンモックを製作し、特別養護老人ホームに設置するなどの活動を行った。市民の方々とワークショップを通して、かつての八潮市の姿を伺うなど、100年運動と市民がどのようにコラボレーションできるかなども探った。

2008

フィールドワークプロジェクト
Fieldwork Project

2008.5.31 - 9.15

2009

2010

やしおのツカイカタプロジェクト

"Yashio no Tsukaikata" Project

2011.4 - 2013.3



▲フィールドワークから見つけたリノベーションできそうな場所

八潮の魅力を最大限に活かす

これまでの100年運動の活動で八潮ならではの魅力的な資源を数多く発見した。テーマを絞り、現地調査・歴史調査などを行い、これらの八潮らしい魅力を最大限に活用し、リノベーションする方法を提案した。

会所橋

Kaishobashi

2011.12-2012.3



▲会所橋（かいしょばし） 竣工写真

昭和用水路に休憩スペースをつくる

かつて八潮の街を潤し、人々を繋いでいた用水路。現在では雨水を流す側溝になってしまい、市民から疎遠になってしまった。八潮に特徴的なこの敷地に橋を架け、周辺に緑を植えることで、休憩スペースを設えた。

きおくのまち WS in 八潮

Kioku no Machi WS in Yashio

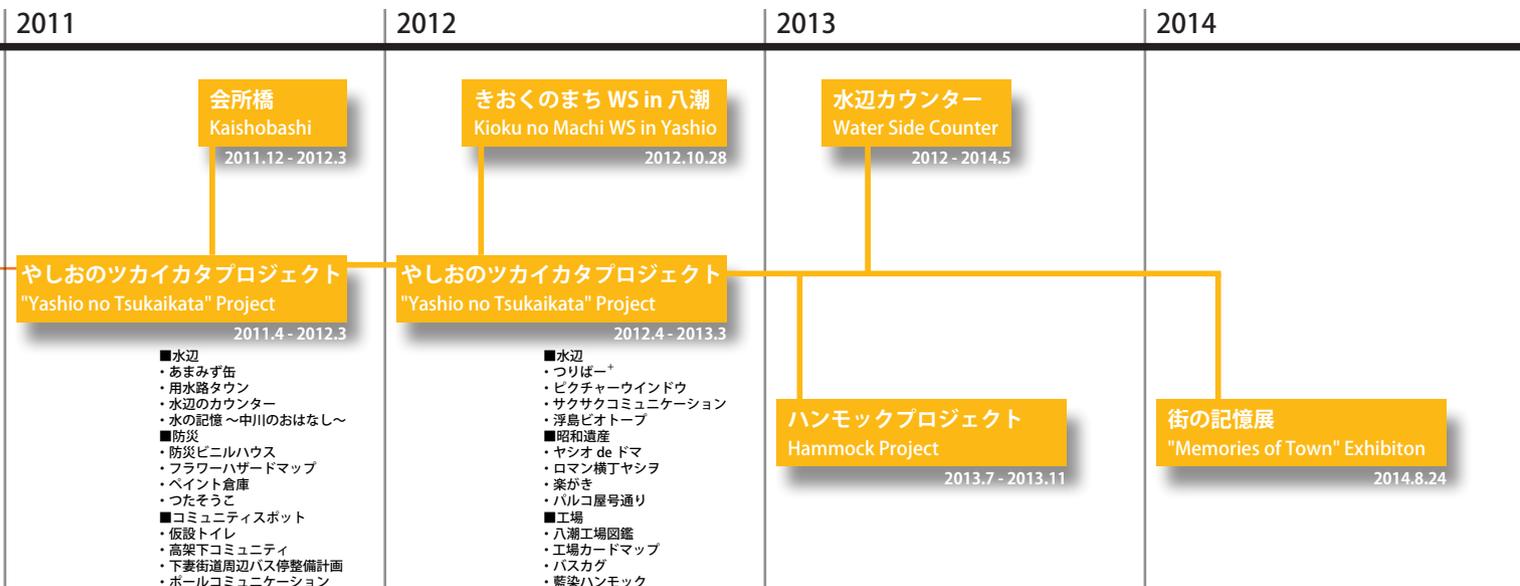
2012.10.28



▲大学生と周辺住民による WS の様子

次代へ繋ぐ昭和遺産『パルコ通り』

きおくのまち WS では、パルコ通りおよびその周辺の模型を作り、やしお市民祭りにおいて周辺住民にヒアリング調査を行った。商店街ができる前までの思い出から最近の状況まで、幅広い意見を集めることができた。



ハンモックプロジェクト
Hammock Project
2013.7-2013.11



▲実際に完成したハンモック

廃材を利用したハンモック

八潮市内にある染め物工場から出る廃材を利用してハンモックを製作。市民も利用しやすいような架構を各大学が考え、特別養護老人ホームにプレゼンを行った。学生自らがハンモックを編み、架構も製作し、施設の庭に設置した。

水辺カウンター
Water Side Counter
2012 - 2014.5



▲水辺カウンター 竣工写真

水辺カウンター

八潮市内の水辺空間には、フェンスによって囲われ、市民が近寄りにくい所となっている場所もある。水辺を散歩する人、近くの住民、釣り人などがとどまり交流できる水辺空間となるように、カウンターを設置した。

街の記憶展
"Memories of Town" Exhibiton
2014.8.24



▲「街の記憶展」会場

今と昔をつなぐ「記憶」の展示

パルコ通り商店会の夏祭りで、パルコ通りの模型と各店舗の写真を紹介する「街の記憶展」を開催。さらに、商店会加盟店のガイドブックも作成した。八潮の昔と今をつなぐ意義深い展示となった。

八潮ならではの街のリノベーション

八潮には、まだ活用されていない魅力的な場所や空間が多く存在している。そこで、八潮で暮らすことがもっと楽しく、豊かになっていくように、これらの場所をリノベーションする提案を行った。

5大学の市内調査の内容をまとめ、「水辺」、「防災」、「コミュニティスポット」の3つのグループに分かれて、それぞれのテーマに基づく提案を行った。



▲5大学による市内調査

▲提案内容を実際に制作し検討した

水辺

中川や葛西用水の水辺は、八潮の特徴的な資源である一方、水質などの環境的な問題を抱える場所でもある。そこで、市内の水路に対して水質調査を行い、様々な水辺に対する活用方法を提案した。

■あまみず缶

雨水を溜めるタンクを設置し、散水や水やりを使用する。また水路に雨水を流すことで、水質を改善する。



■用水路タウン

水の流れていない用水路に屋根を架け、子どもたちの遊び場や、人々を繋いでいく役割をもたせる。



■水辺のカウンター

水路のフェンスにカウンターを設置することで、散歩する人や釣り人が留まることのできる場所ができる。



■水の記憶 中川のおはなし

堤防を散歩やランニングで利用する人が、中川の歴史や昔話＝『水の記憶』を知るためのリーフレットを制作する。



防災

市内の防災倉庫や災害記録を調査し、普段意識されない防災倉庫の改善や、八潮らしい防災の方法を考えた。防災に繋がる施設を日常的に使用することで、市民にとって防災が身近になるようなアイデアを提案した。

■防災ビニルハウス

即効的な空間の確保と地域密着性に注目し、ビニルハウスに被災時・被災後に求められる機能を配置する。



■フラワー ハザードマップ

市民と一緒に土のうで八潮の形の花壇を作る。花の色は水害ハザードマップを示している。



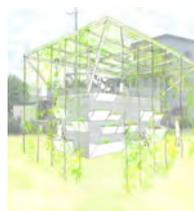
■ペイント倉庫

市民の防災意識を高めるきっかけとして、既存の防災倉庫に防災に役立つ情報をペイントする。



■つたそうこ

防災倉庫の上にパーゴラを取り付け、ワイヤーを降ろす。そこに藁をからませることで、倉庫の使われていない面に居場所を作る。

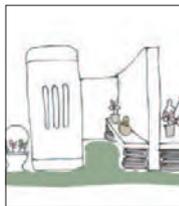


コミュニティスポット

バス停・公衆トイレ・公園・高架下などは、住民同士のコミュニケーションの場となる可能性がある。これらを有効活用し、市民が親しみ利用しやすい空間へと改善するため、提案内容を試作しながら検討した。

■仮設トイレ

マイナスイメージが強い公園の仮設トイレを、大切に使用してもらえるように愛着をもてるデザインを考えた。



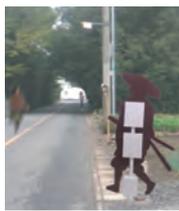
■高架下 コミュニティ

柱やフェンスや廃材などを使ったプランターで緑化する。プランターは取り外し可能で、市民が悪い思いに育てていく。



■下妻街道周辺 バス停整備計画

市内を南北に通る、下妻街道の認知度をあげるために、江戸時代の街道のモチーフで道標やバスのサイン計画を行う。



■ポール コミュニケーション

用水路の蓋も兼ねる広い歩道にある、車止めのポールやフェンスを家具化することで、人々の交流場所が生まれる。



八潮の魅力を再発見

これまでの活動で発見した『八潮ならではの魅力資源』。その中から、「水」、「昭和遺産」、「工場」の3つのテーマに絞り、現地調査・歴史調査などを行った。前年度から引き続き、これらの魅力を最大限に活かすために、「やしおのツカйкаタ」を再考した。



▲八潮の工場見学



▲まちづくりフォーラムの様子

水辺

前年度と同じテーマで活動。今回は、綾瀬川・葛西用水に重点をおき、水の歴史、水質改善、親水空間のあり方を考えた。現在の使い方もより楽しく、より水辺に親しめるような空間を提案した。

■つりばー+

川沿いに高さ・幅の異なる天板を設置。ベンチ、木琴のような音が鳴るもの、釣竿の固定ができるものなどをつくる。



■ピクチャーウィンドウ

八潮の美しい川沿いの風景を、普段とは違う視点で眺めることで、より意識して感じることを目的とする。



■サクサクコミュニケーション

土手道にイスやテーブル、掲示板など様々なツカйкаタができる木製の柵を設置する。



■浮島ビオトープ

水との接点が少なくなった川に、親水空間をつくる。浮島が水質を浄化し、生態系を回復させる。



昭和遺産

市内に残る懐かしい昭和の魅力に着目し、商店街や建物などを調査。やしお市民祭りの来場者や、パルコ通り商店会とワークショップを行い、昭和時代の遺産と呼べるもののツカйкаタを提案した。

■ヤシオ de ドマ

閉鎖的な空間となっている八潮ショッピングセンターに取り外し可能なプランコを設置。また、空き店舗を利用して、商店街の活性化へ貢献。



■ロマン横丁ヤシオ

八潮ショッピングセンターのアーケードに取り外し可能なプランコの設置。イベントや目的によってプランコの配置を変更する。



■案がき

空き店舗のシャッターをキャンバスに見立て、落書きアートを展示する。



■パルコ屋号通り

パルコ通り一帯に共通のデザインからなる屋号をかけ、通りに一体感と密度感を生み出す。



工場

八潮市で元気に活躍する工場に着目し、『工場革命×八潮 OPEN』というコンセプトで活動。工場見学で得た知識を活かし、市民の方や子どもたちに親しみをもってもらえるようなアイデアを提案した。

■八潮工場図鑑

特徴のある工場の情報を図鑑にまとめる。工場の活動の見えやすさレベルや工場を訪れた際に体験できる活動をアイコンで表示。



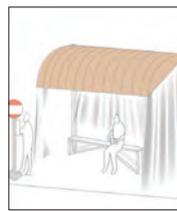
■工場カードマップ

あまり知られていない工場を、特に子どもたちに知ってもらうために、工場をトレーディングカード化する。



■バスカグ

バス停のベンチ、イスなどを八潮の製品や廃材でつくることで、八潮の工場をより身近に感じさせる。



■藍染めハンモック

伝統工芸である藍染めとハンモックの自由度を活かし、野外での居場所をつくり出す。



水路の未来を考える

八潮の財産である「水路」は、市民に必ずしも良い印象を与えていない一面もある。

そこで、水路を活用するために、八潮市全域の水質調査を行った。



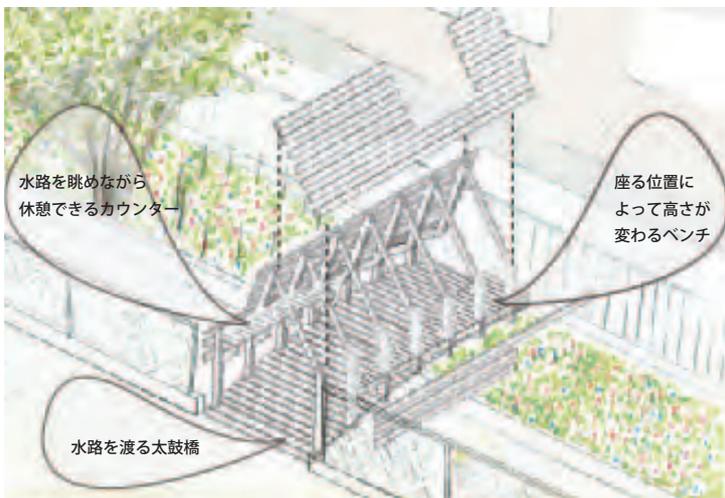
▲水路での水質調査



用水路の上の小屋のような形の休憩所

昭和用水路は、周囲より地盤が高く農業用水が引けない潮止地域に、中川から用水路をつくろうと、村民総出で工事して完成した歴史をもつ水路である。平成の始めまで利用されていたが、潮止周辺地域の宅地化が進み、農地が減少したことで役目を終えることになった。

この歴史ある水路沿いに、楽しみながら一休みできるスポットとして、ベンチやカウンターをもつ休憩所を提案した。かつて水で街をつないでいた場所に橋をかけることで、八潮の歴史を感じ、人と人をつなぐ橋となる。



▲水班による提案

水路の歴史を伝える「会所橋」

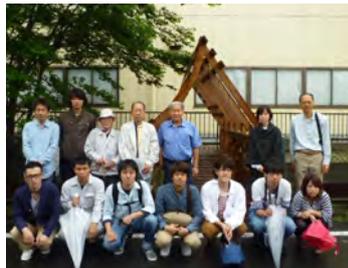
何度もスタディを重ね、形やデザインを決定した。その後、どのように建てるかは作業しながら決めていった。材料は、補修などのメンテナンスがなく管理がしやすいものを使用し、草地側には、ワイルドフラワーをグランドカバーとして使用した。



▲モックアップの製作



▲工事の様子



▲完成時の集合写真



▲内観



▲完成した会所橋

昭和の繁栄、街の形成を伝え、街のいいところを残す為に

昭和時代に生まれ、栄えた商店街 - パルコ通り商店会。
今までの調査の中からパルコ通り商店会に焦点を当て、商店街周辺を対象に模型を作成。その模型を用いて、市民祭りの際にワークショップを行い、街の思い出や良かったところ、残していきたいところをマッピングしていった。これをきっかけに、パルコ通り商店会の方や市民の方たちと、より一層密接に関わることができ、新しい提案につながって行く出発点を得た。



▲様々な世代の方が参加したWS当日



▲完成した模型

パルコ通り商店会定例会に参加 ワークショップの報告

パルコ通り商店会の月に1度の定例会に参加し、模型を囲んで店主の方々にお話を伺った。
対話を通してかつての思い出をうかがうとともに、今後どういこうコラボレーションができるかというビジョンを共有した。



▲パルコ通り商店会でのお披露目 (2012/11/07)

パルコ通り思い出マップ

聞き取り内容をまとめ、昭和・平成の思い出が詰まったマップを作成。

■凡例

- 青**→名称
 - ・建物やお店の名前
 - ・街のランドマーク
 - ・〇〇さんの家 等
- 黄**→平成の思い出
 - ・よく集まる場所
 - ・よく行くお店
 - ・大好きな場所 等
- 赤**→昭和の思い出
 - ・昔よく行っていた飲み屋
 - ・今はなくなったが欲しい
 - ・かつての遊び場 等
- 紫**→今後も残したい
 - ・築〇年の立派な建物
 - ・街のランドマーク
 - ・地元の伝統的な祭り 等



▲聞き取り内容をまとめた思い出マップ

廃材から新しい風景をつくる

八潮市は埼玉県第3位の工場数を誇る工業集積都市である。街を歩いても、あちこちから工場で働く人々の活動の様子を感じることができる。「工場班」は、これを八潮らしい風景と捉え、工場の活動が市民に伝わりやすくなるような提案を検討した。

そこで、染め物工場から廃材として出る布の端切れを使い、街に新しい風景をつくることを目指した。



▲八潮にある工場の地図



▲工場見学の様子



▲廃材を使った編み物

編み物ワークショップ

やしお市民祭りで、廃材の布を利用した鍋敷きや、ハンモックのネットをつくる編み物ワークショップを開催した。布の編み方は学生が研究し、とても丈夫なものとなった。



▲廃材を利用した編み物の例 編み方を変えることで様々な模様、形を編むことが可能

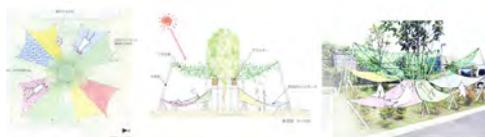


▲市民まつりでのワークショップ

地域の人々と交流するハンモック

市内の特別養護老人ホームから、施設の敷地内に、地域の人々が誰でも利用できる「みんなの庭」＝「公園」をイメージした空間をつくりたいという要望があった。

そこで、「工場班」が提案したハンモックを、敷地にジグザグに配置することで、地域の人々が集まるコミュニティスポットをつくるという仕掛けを提案し、2人掛けと3人掛けのハンモック型のベンチを作成した。



▲完成イメージ



▲スタディ模型



▲試作品を作成



▲組み立て作業



▲入居者と一緒に布を編む



▲設置後の様子 楽しく自由に交流できる場が生まれた

水と人との距離を近づける場所づくり

古くより水に囲まれ、水とともに生活のあった八潮だが、時代の変化により水路は利用されなくなった。近年ではフェンスで仕切られたりコンクリートで護岸された水辺が目立ち、市民が近づきにくい空間となっている。そこで、親水空間を創出するために、「水班」より提案のあった水辺カウンターを葛西用水につくることにより、人々が水辺を眺め、釣りや生態観察ができる場とした。



▲「水班」の構想スケッチ



▲水辺カウンターイメージ



▲工事の様子



▲完成した水辺カウンター 散歩の小休止やシティフィッシングを楽しむ場に



街の記憶展

パルコ通り商店会が主催する夏祭りにおいて、パルコ通りの模型を製作し、各店舗の紹介写真を展示した。模型は、八潮市内の紙工場に提供していただいた材料を使った。また、パルコ通りについての思い出や意見を来場者が自由に書き込める黒板を設置した。当日はたくさんの小中学生や地域住民が集まり、こうした人々とパルコ通り商店会の人たちをつなぐ展示となった。



▲パルコ通り模型の展示風景①



▲パルコ通り模型の展示風景②



▲展示小屋外観



▲地域住民に話を聞く学生

パルコ通り商店会のガイドブック

パルコ通り商店会夏祭りの準備を進めている中で、展示だけではなく、何か形として残るものをつくりたいという意見が出てきた。そこで、模型では伝えきれない細かい情報を載せた、ガイドブックをつくることに。学生が、連日パルコ通り商店会に出向き、一軒一軒インタビューして集めた情報を凝縮して、夏祭り会場で来場者に配布した。



▲パルコ通り商店会のガイドブック「PARBON」



▲各店舗を詳細に紹介

やしお駅前公園プロジェクト

プロジェクト概要

「八潮街並みづくり 100 年運動」において取り組むことになったやしお駅前公園プロジェクト。駅前公園ならではの魅力、八潮の「かお」となる公園、ほかの街からも来なくなる公園など、これからの「街」と「公園」のより良い関係を目指して、八潮市で行われた市民ワークショップや商工会による公園提案を踏まえ、デザインの検討を行った。2010 年度に行ったワークショップでは、各大学ごとに事例調査やフィールドワークを行い、5 つの大学でデザインする強みをどのように活かせるのかなどを考えながら作業を進めた。2010 年度、1 年間を通して検討を行ってきた公園計画は、最終的に「ヤシオカ公園」案を基本とすることにまとまった。

2009

市民ワークショップ
Citizen Workshop

商工会による公園提案
Park Proposal

2010

第 1 回ワークショップ
1st Workshop

2010.6.19
 ・公園フィールドワーク
 ・公園事例調査
 ・駅前公園事例のリスト化

市民への意見調査
Idea Survey for citizen

第 3 回ワークショップ
3rd Workshop

2010.7.30
 ・小さな建築群
 ・重層設計プロセス
 ・ヤシオイベント広場
 ・ヤシオエキマエノ森
 ・もりプラン
 ・つまみプラン
 ・ねじれプラン
 ・ルーフプラン
 ・Transductive-enclosure
 ・八潮スカイラインズ

第 2 回ワークショップ
2nd Workshop

2010.7.19
 ・1 つの公園像
 ・人の現象への着目
 ・八潮らしさ VS 公園らしさ
 ・ヤシオパーク
 ・二面性を持つ駅前公園

第 1 回ワークショップ
1st Workshop

2010.6.19



▲ WS の様子

事前調査報告会

駅前公園のデザインの検討にあたり各大学が事前に調査し、その報告会を行った。国内外から事例を収集し、八潮市の新しい顔となる公園のきっかけを探った。

第 2 回ワークショップ
2nd Workshop

2010.7.19



▲日本工業大学の提案の一部

各大学が設計方法を提案

事前調査を基に各大学がそれぞれ駅前公園のデザインの方法を提案した。ひとつの敷地を 5 大学でどのように分担し、デザイン検討していくなどの議論がなされた。

第 3 回ワークショップ
3rd Workshop

2010.7.30



▲学生が先生方に案の発表

各大学が計画案を発表

第 1・2 回のワークショップでの報告を基に、各大学が計画案を発表した。大学連携では、周辺環境を踏まえた計画などバリエーションに富んだ案が提示された。

第 4 回ワークショップ
4th Workshop

2010.8.8 - 9



▲5 大学が共同で作業を行う

案を絞り、共同作業を開始

各大学が案を一つにまとめ発表、「神戸大学+神奈川大学」「リミックス」「つまみ丘公園」の 3 案に計画を絞り、5 大学の共同による作業を開始した。

外交官（調整担当者）会議
Diplomat Meeting

2010.8.23

第6回ワークショップ
6th Workshop

2010.9.18-19

- ・100 活園
- ・八潮大地
- ・ヤシオカ公園

やしお駅前公園
Yashio Station Park

2015.3 完成予定

第4回ワークショップ
4th Workshop

2010.8.8-9

- ・活動の森
- ・Re:mix 設計プロセス
- ・全体が一つの丘であり
様々な場を内包する公園
- ・つまみプラン

第5回ワークショップ
5th Workshop

2010.9.1

- ・活動の波紋
- ・リミックス+丘
- ・ヤシオカ公園

神戸ワークショップ
Kobe Workshop

2010.10.16

第5回ワークショップ
5th Workshop

2010.9.1



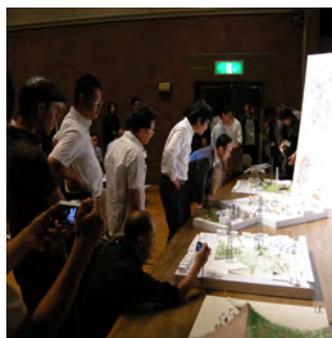
▲模型を使った会議の様子

選抜3案の発表、講評

「活動の波紋」「リミックス+丘」「ヤシオカ公園」の3つの案の発表、講評を行った。各要素がうまくまとめられバランスをとりつつ計画が進められた。

第6回ワークショップ
6th Workshop

2010.9.18-19



▲模型をのぞき込む多田前市長

市長、関係者に発表

第5回ワークショップで出た意見やアイデアなどを踏まえ、「100 活園」「八潮大地」「ヤシオカ公園」の3案がまとめられ、市長や関係者への発表が行われた。

やしお駅前公園

Yashio Station Park

2015.3 完成予定



4年越しの計画が実現

2010年度に「ヤシオカ公園」案を基本とすることでまとまった、やしお駅前公園プロジェクトは、日本工業大学が中心となって全体のデザイン計画を詰め、ディテールの検討などを進めた。また、公園整備を行う八潮市においては、このデザイン計画を受け、基本設計、実施設計に反映し、公園整備工事が進められた。

設計への事前調査

プロジェクトをはじめるにあたり、公園に必要な要素や条件を把握するため、各大学で役割分担をし、植栽・親水・遊具・照明などについて調査した。国内外から事例を収集し、やしお駅前公園の基本デザインの土台をつくった。大学ごとにグループに分かれ現地調査を行い、駅前公園に何が求められているのか、どのように協力すれば、5つの大学でデザイン検討する強みが活かせるのかなどを考え、公園の検討を進めていくことを確認した。



▲ WSの様子

公園事例 駅前

- ・他の立地条件と比べて、遊具、緑地などの要素をもつことが少ない
- ・一方で、駅前という性質からか、ランドマーク性をもつモニュメントが多い



名称：阪神尼崎駅前
所在地：兵庫県尼崎市神田中通1丁目・神田北通1丁目9番地
規模：1.23ha
設計：環境設計(株)

▲茨城大学が収集した公園事例の1つ

Volume
United Visual Artists

人間の動きに合わせて変化するLEDのインスタレーション。3か月という長い期間、博物館のエントランスに設置されていた。
46本円柱型のLEDを使い、森のようなボリュームのある照明と音で、団体でも個人でも探検できるような空間を演出した。それぞれの柱にスピーカーがついている。

site: ヴィクトリア・アンド・アルバート博物館 (ロンドン)



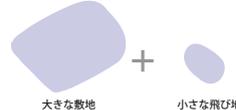
▲神奈川大学が収集した照明の事例

公園デザインの検討方法を議論

1つの敷地を5大学でどのように連携して公園デザインの計画としていくかを、各大学が提案し議論を行った。単に敷地を5つに分割するという方法ではない、連携5大学の関わり方を考えた。

1つのコンセプトのもとで、分割した敷地に各大学が設計するという神奈川大学の案や、各大学の範囲に、他の大学の小さな範囲が入り込むことで多様な関係性を生み出すという、日本工業大学の案(飛び地システム)、人の速度・密度、光質など、八潮駅前で起こる人の様々な現象に着目した公園とすることで、訪れる人によって、公園の風景がつくられるという信州大学の案など様々な提案がなされ、公園デザインを進める上での方針を確認した。

1 各大学が大きな敷地と、小さな飛び地を担当する。



2 飛び地は、他の大学が担当する大きな敷地の中に入り込む。



3 それらが5つあつまることで八潮公園ができる。多様なシーンとアクティビティが発生する。



▲日本工業大学が提案した「飛び地システム」



▲「飛び地システム」により想定された各大学の敷地



▲各大学が提案した模型



▲ WSの様子

各大学が計画案を提案

第1・2回ワークショップを基に、連携5大学がそれぞれ個別に公園計画を提案した。

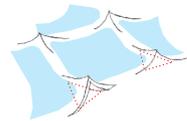
2008・2009年の調査を踏まえ5つのデザイン要素を抽出し、それぞれの要素に見合った設計を1つに統合することでズレを生み出すという東京理科大学の案など、各大学が第2回ワークショップでの意見・アイデアを踏まえて公園の計画案を提示した。

つまみプラン

日本工業大学が提案した4つのプランのうちの1つ。地面をつまみ上げ景色や活動に表情を出す、というプランであり、起伏を1つのポイントとして様々な場をつくるという提案。



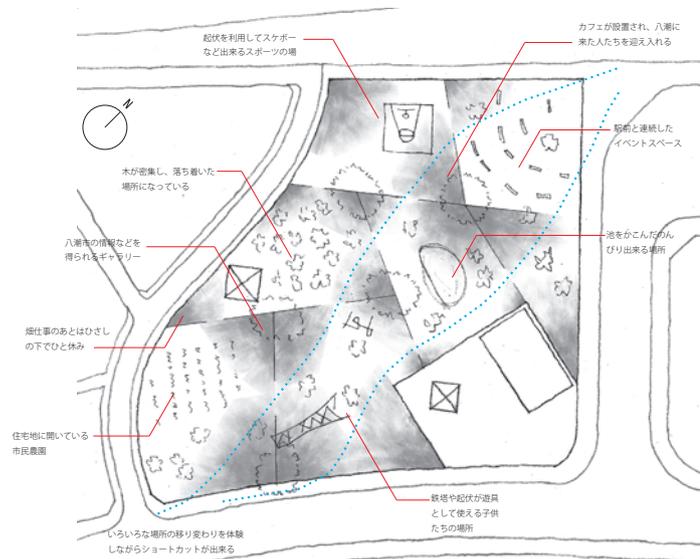
地面に切れ目を入れ、つまみあげたような起伏をつくる



この起伏は面を分節するポイントとして点在し、建築にもなる



建築になるポイントを5つ作り、5大学で分担して設計。ポイントの頂点には大きな木を植えて木陰で休めるようにする。



計画案を統合、共同設計を開始

第3回ワークショップの成果に基づき、各大学がブラッシュアップした案をまとめ発表を行った。発表を踏まえて、5つの案を3案に統合し共同設計を開始した。

ヒューマンスケールに特化した神戸大学案とヒューマンアクティビティを考える神奈川大学案を合わせた「神戸大学+神奈川大学」、信州大学の案を基にし茨城大学の案で補完する「リミックス」、日本工業大学の案を発展させていく「つまみ丘公園」の3案とする方針が固まった。



◀各大学の5つの提案
これらを組み合わせること
で3案にまとめあげた

選抜3案の発表、講評

第4回のワークショップでまとめられた「神戸大学+神奈川大学」「リミックス」「つまみ丘公園」の3案に5大学の学生を振り分けて作業し、まとめたものについて発表、講評を行った。

「活動の波紋」「リミックス+丘」「ヤシオカ公園」のそれぞれについて先生を交えて意見交換し、次回ワークショップに向けてのブラッシュアップの方針を確認した。



活動の波紋

細分化された多数の小公園が集まる。さらに、公園としての機能を満たす為に、トイレ、防災備蓄倉庫、イベント広場、などの配置を具体化した。



リミックス+丘

各大学が持ち寄った案をミックスさせてつくった丘をもつ計画案。各要素がうまく横断、共存できるバランスをとりつつ計画が進んだ。

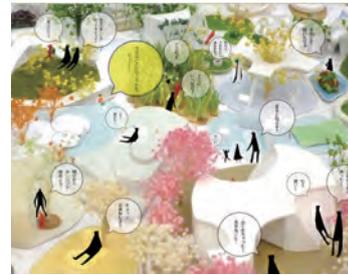


ヤシオカ公園

8/21の外交官(調整担当者)会議においてまとめた案をブラッシュアップした計画案。駅から街への主要動線など、より具体的な条件が反映された。

市長、関係者らに選抜3案をプレゼンテーション

第5回ワークショップで出た意見やアイデアなどを踏まえ、「100 活園」「八潮大地」「ヤシオカ公園」の3案にまとめられ、市長や関係者らへのプレゼンテーションが行われた。



▲100 活園 模型写真



▲八潮大地 平面図



▲ヤシオカ公園 平面図

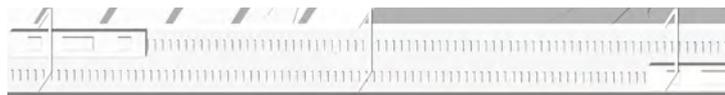


▲ヤシオカ公園 八潮駅側から見たイメージベース

2010年度に始まった計画が実現

2010年度、1年間を通してデザインを検討してきたやしお駅前公園プロジェクトは、「ヤシオカ公園」案を基本とすることでまとまった。その後、日本工業大学が中心となって全体のデザイン計画を詰め、ディテールの検討などを進めた。

公園整備を行う八潮市においては、これらのデザイン計画を受け、基本設計（2010年度）、実施設計（2011、2012年度）に反映し、2015年4月のオープンに向けて整備工事が進められることになった。今後、この公園を訪れる市民の方や利用者に、末永く愛されることを期待してやまない。



▲最終案 平面図



▲最終案 断面図

家づくりプロジェクト

プロジェクト概要

街並みの原点である「住宅」に着目し、八潮で家づくりを考えている人々に連携 5 大学が協力し楽しみながら家づくりをすることを目的としたプロジェクト。
市内の子どもたちと「わたしの理想の家」をつくる「ジュニアワークショップ」をはじめ、フィールドワークから得られた八潮らしい特徴をもつ敷地を選定し、住宅モデルの設計を行った。市民の方々と学生と一緒に住宅を設計する「家づくりスクール」は 2 回開催され、どちらも個性的な計画が数多く生まれた。これらの活動の中で得られた「八潮らしい家づくり」の作法は「やしお家づくりデザインマナーブック」にまとめられている。

2008

フィールドワークプロジェクト
Fieldwork Project

2008.5.31 - 9.15

ジュニアワークショップ
Junior Workshop

2008.9.14 - 9.15

2009

第 1 回 家づくりスクール
"Ie Zukuri" School

2009.6.6 - 11.21

八潮らしい住宅モデル
"Yashio rashii" House Model

2009.7.25 - 11.22

- ・マスクメロン街区
- ・オカノイエ
- ・八條の角屋
- ・密集イエイエ
- ・町工場と袋小路と家と
- ・オカケンチク
- ・ホウチメリット

2010

ジュニアワークショップ
Junior Workshop

2008.9.14 - 9.15



▲ WSに参加した子どもたちと大学生

住宅を考える面白さを伝える

ジュニアワークショップでは、八潮市のリサーチおよび各大学の提案した建築プロジェクトを基に、市内に住む子どもたちと学生が一緒になり、子どもたちの「わたしの理想の家」を作るワークショップを行った。

八潮らしい住宅モデル
"Yashio rashii" House Model

2009.7.25 - 11.22



▲東北工業大学の提案した『マスクメロン街区』

土地の個性を引き出し住みこなす

八潮市全域のフィールドサーベイから、八潮らしい特徴をもった想定敷地を 7 つ選び、それぞれの敷地に対して 5 大学の学生が住宅モデルの設計を行った。どの提案も敷地の個性を活かしたモデルに仕上がった。

T 邸 プロジェクト
"T House" Project

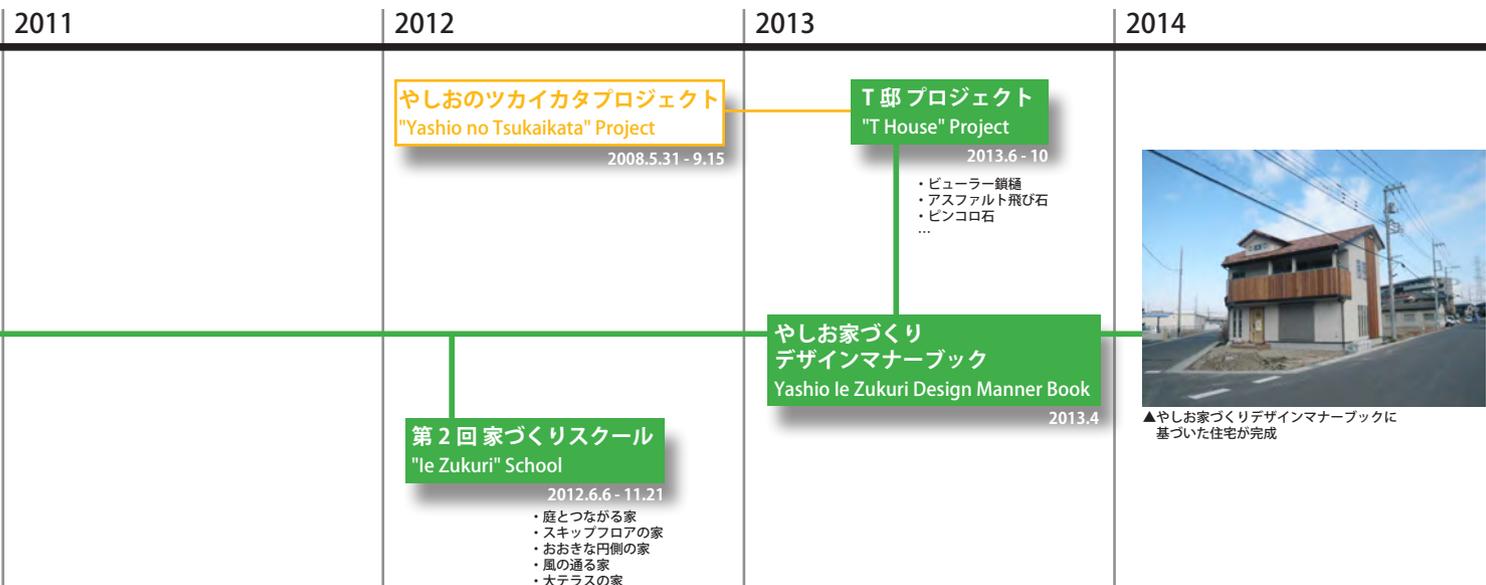
2013.6 - 10



▲八潮市内に建てられた T 邸

八潮らしさを取り入れる

八潮市では、地域に根ざした街並みづくりのコンセプトを取り入れた家づくりの普及を行っている。T 邸はこれらのコンセプトを取れ入れた住宅であり、内部から外構に至る細部まで「八潮らしさ」にこだわった。



家づくりスクール
"Ie Zukuri" School

第Ⅰ期 2009.6.6 - 11.21
第Ⅱ期 2012.7.15 - 12.2



▲ 2009 年度家づくりスクール ▲ 2012 年度家づくりスクール

理想の住宅を考える

2008 年度のフィールドワークから八潮らしい特徴をもった敷地を選定し、市民の方々と学生が 4 回のスクーリングを通して、『地域の特色を活かした家』『住んでみたい家』『建てたい家』の設計を行った。

やしお家づくりデザインナーブック
Yashio Ie Zukuri Design Manner Book



▲八潮街並みづくり 100 年運動の紹介から、実際の家づくりスクールで生まれたアイデアなどが紹介されている

「八潮らしい」家づくりのマナーを紹介

市民の方々と街並みの原点である「住宅」に着目し、八潮で家づくりを考えている人が楽しみながら住宅をつくることで街並み形成に取り組みよう、「やしお家づくりデザインナーブック」を作成。八潮街並みづくり 100 年運動を進める中で 5 大学から提案された「家づくりのアイデア」を掲載し、八潮で家を作る際に配慮する「マナー（作法）」を紹介している。また、八潮市では「やしお家づくりデザインナーブック」に基づく住宅の普及を目的とした「八潮らしい街並み景観形成支援補助制度」を創設（2013 年度～）した。2014 年度には、このナーブックに基づいた住宅が誕生した。

2013.4

<p>1 八潮らしく、家をつくるということ 八潮に住む魅力、建築家 5 人が感じる「八潮らしさ」とは</p> <p>2 八潮ではじめよう 家づくり 10 八潮ではじめよう 家づくり 11 やしお家づくりデザインナーブックってなに？ 八潮市役所内</p> <p>3 家を建てる前に 20 家を建てる前に 21 家づくりのイメージや要望を整理しよう！ 新しい暮らしの場を築こう！</p> <p>25 ■ワークショップ1 家づくり提案するためのワークショップ 26 ■ワークショップ2 敷地探しお楽しみワークショップ 26 ■コラム1 昔はどんなところだった！（八潮市史の歴史）</p>	<p>4 家づくりアイデア集 24 家づくりのコンセプト 26 家づくりのつながり 28 住み心地の良い家づくり 32 地域のつながり 34 子育てしやすい家づくり 36 緑豊かな環境づくり 38 近隣のつながり 39 住居のふもとを家づくり 40 建築家や建築家から 44 モデルプラン 45 実践！家づくりレポート</p> <p>5 家づくりお役立ち情報 38 家づくりお役立ち情報 39 「家づくりのイメージや要望を整理しよう！」 40 「家づくりのイメージや要望を整理しよう！」 41 「家づくりのイメージや要望を整理しよう！」 42 「家づくりのイメージや要望を整理しよう！」 43 「家づくりのイメージや要望を整理しよう！」 44 「家づくりのイメージや要望を整理しよう！」 45 「家づくりのイメージや要望を整理しよう！」 46 「家づくりのイメージや要望を整理しよう！」 47 「家づくりのイメージや要望を整理しよう！」 48 「家づくりのイメージや要望を整理しよう！」</p> <p>47 参考資料 48 家づくり情報</p>
---	--

リサーチからプロジェクト、ワークショップへ

自転車を使って八潮の街のリサーチを行った。参加している5大学の学生が市内をくまなく走り、特徴的な場所を採取、その後ディスカッションを行い、各大学がリサーチから得られた発見や課題を建築プロジェクトとして制作した。各大学が制作したプロジェクトを土台にして、市民の方々とディスカッションする討論会を行った。市民の子どもたちが建築家となって学生たちと「わたしの理想の家」をつくるワークショップは、参加した子どもたちなど参加者に住宅を考える面白さを伝えた。



▲学生が自転車によって市内をくまなくリサーチする

▲市民との意見交換会

子どもたちの考える「夢の家」

子どもたちが考える理想の住宅には、クワガタ虫型の家やトランポリンを使わないと入れない家など豊かな発想のものが多くみられた。中には"緑化"や"環境に配慮したエネルギー"を考えたエコ住宅の提案もあり、環境問題に対する子どもたちの関心の高さが垣間見られた。子どもだけでなく、学生、先生にとっても有意義なワークショップとなった。



▲ジュニアワークショップの様子

土地の個性を引き出し、楽しんで住みこなす

八潮市全域から、八潮らしい特徴をもったモデルとなる敷地を7つ選定、各敷地にそれぞれの大学が住宅モデルの設計を行った。『オンリーワンの住宅モデル』『住みこなす楽しみ』『個性に＜理由あり＞』『建築家・大学研究室とのコラボレーション』『まちに参加する住まい』という特徴をもつ個性的な住宅モデルが仕上がった。



▲八潮らしい特徴をもつ7つの敷地



▲敷地をプロットしたマップ

6『オカケンチュク』

八潮には盛土が多く、平坦な街に土という自然のものが変化をもたらしています。この盛土は地盤改良の為のものであり、廃棄されることが多いようです。しかし、八潮の駅周辺に新しい建物ができていくことに合わせて、この丘のような風景を消してしまうのではなく、盛土と共に暮らすことができる集合住宅を提案します。

ポイント

- オカと庭とが植栽で分けることで、緩やかに連続する広々とした場所になる。
- 外で食事をするなど天気の良い日には、八潮の風景を楽しむことができる。



▲日本工業大学が考えた住宅モデルの1つ

「八潮らしさ」を取り入れた住宅

2008 年度から続くフィールドワークや、2012 年度に行った『工場革命』プロジェクトなどから得られた「八潮らしさ」を取り入れた住宅を設計した。調査の際に八潮の産業とその廃棄物を把握することで、それらを住宅に結びつけた。街並みづくりのコンセプトである『つながり』を意識して、工場から出る廃材を利用するとともに、八潮の土や植物を使用することで、細部まで八潮らしさにこだわった住宅となった。



▲実際に竣工した T 邸

八潮の材料を使った外構、茶室計画

T 邸の外構や茶室には、八潮にある工場から出る廃棄物の中から利用可能なものを選別して利用している。鎖樋（くさりどい）には世界一のシェアをほこるビューラー工場から出る不良品を再生利用するなど、八潮の材料を様々な工夫、加工し住宅の内外に利用している。

一 T 邸外構提案一



▲学生の考えた T 邸の外構計画

神奈川大学

Proposal
- 建具

ツインカーボとシナベニアで棚の扉を製作した。2種類の扉が棚に独特のリズムを与えている。ツインカーボの建具は、明障子のように柔らかに光を透過する。



Proposal
- 茶室

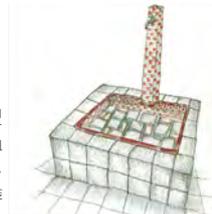
市内で採れた材料を使用することによってこだわった茶室。市内の土を使用した土壁は、土を焼くことで色味を変化させた。天井は、市内の工場である平澤製作所のビューラーの廃材を紐で縫い合わせ製作した。



神戸大学

Proposal
- 外流し

廃材の御影石ピンコロ・ブロックを使って外流しを囲い、受け皿にも敷き詰めた。合わせてモザイクタイルを使い、水柱柱に装飾を施した。



Proposal
- 玄関アプローチ

コンクリート平板を基調に、アクセントとしてピンコロ石を敷いた。配列の角度は玄関や生垣のラインを基準に定めている。



東京理科大学

Proposal
- 版築

茶室からのアイ・ストップとして版築の壁を提案した。土のやわらかい表情と、テーパーを付けた不均一な壁面による陽光の反射が、茶室に独特の雰囲気を与える。



Proposal
- 植栽・瓦土留め

路地の奥行きにしたがってシマ状に植栽を点状させた。各シマには視覚効果を考慮して四季折々の花々を配置した。また、瓦土留めによって植栽を仕切ることによって路地のアクセントにした。



日本工業大学

Proposal
- 書斎棚

書斎で使うために考えられた棚。色は床と合わせたものになっている。棚の高さは机と揃えて使えるようにしている。リビング側からも使えるように背板が中央にある部分もある。



Proposal
- 駐車場棚

室内にしまいきれない道具や家庭菜園で使う道具を収納するための棚。壁に沿って屋内用、屋外用と分けて設置した。様々なものに対応できるように幅広い棚にし、長いものも収納できるように縦長の棚も設けた。



信州大学

Proposal
- ビューラー鎖樋

茶室横の雨樋は市内の工場である沼澤製作所のビューラーの廃材を組み合わせて製作した。組み合わせや配列を調整することでオリジナルかつ八潮らしい鎖樋を目指した。



Proposal
- アスファルト飛び石

露地には飛石を敷き、茶室へのアプローチを演出した。アクセントとして廃材のアスファルトを使い、道のりながら八潮らしさを取り入れた。



家づくりスクールとは？

八潮市で家を建てたいと考えている市民の方が受講者となり、「八潮街並みづくり 100 年運動」に関わる 5 つの大学と共に、希望の家づくりを考えるワークショップを行った。スクールでは、受講者の要望を基に具体的な間取りまで検討し、八潮らしい家の設計を行った。

第1期 家づくりスクール (2009 年度)

第1回 2009.6.6

「家づくりのための講座」を開催。市民の方々 8 組をクライアントに、連携 5 大学の学生を設計者に見立て、「住んでみたい家」「建てたい家」を考えるワークショップを行った。茨城大学の寺内美紀子准教授（現信州大学准教授）による家づくりに関する講演の後、受講生と学生の顔合わせ、間取りの打ち合わせをし、現地調査を行った。

第2回 2009.7.26

東北工業大学の槻橋修講師（現神戸大学准教授）による「家づくりから始めるまちづくり」についての講演後、第1回のスクールでの打ち合わせ内容を基に、各グループが図面や模型を用いて、受講者の方々に提案を説明した。その後、提案された住宅について各グループで打ち合わせを行った。

第3回 2009.8.22

2 回目の提案となったこの回では、各住宅の大体の間取りが決まり、細かな部分の調整が行われた。プランや天井高、また光の取り入れ方といった具体的な検討をし、最終的に提案する住宅の形が見えてきた。

第4回 2009.11.21

家づくりスクール最終回。8 つのグループが考えた住宅の最終提案の発表を行った。それぞれの班で受講者と学生とが打ち合わせを行った結果、敷地の読み込みから、周辺環境の取り込み方などを踏まえた、個性溢れる 8 案が仕上がった。受講した方々のうち 1 組が、このスクールで設計した八潮らしさを取り入れた住宅の建築に至った。

発表後には、受講生の方々に 5 大学の先生が修了書を贈呈した。



▲家づくりスクールの様子



▲受講生に渡された修了書

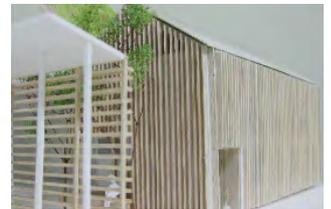
1 | 内/外 日本工業大学

この家は 100 坪の敷地を全体的に使うこと、天井の高い開放的なリビングと来客用の和室、洋風の外観といった要望を基に計画された。建物の外側全体をベランダで縁取り、内側には吹き抜け、庭には東屋を配置して中のような外、外のような中を実現して敷地の空気感を満喫できる。



2 | モコモコプラットフォーム 東北工業大学

市内で材木店を営む住宅の二世帯住宅化と雑貨屋の改装計画。新築（増築）部分を中心とした住居・店舗・卸しの共通の認識をつくり出すプラットフォームのような建物を設計した。木の良さを最大限に感じられるような外観と緑がセールスポイントとなっている。



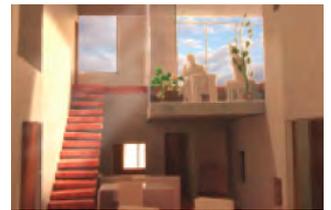
3 | 風のすまい 信州大学

施主は具体的な建替えの予定はないが将来の家の構想のために参加した。様々な要望の中から草の屋根を用いて室内の温度上昇を防ぎ木漏れ日をもたらす、風の部屋や土の寝床で環境に優しく快適な空間を実現といったアイデア満載の家が出来上がった。



4 | 空中庭がある家 神奈川大学

夫婦 2 人のための家。まずは敷地選びからスタートし、外の視線を気にせず生活できる、収納がたくさんある、明るく広いリビング、風通しがいいといった要望を基に計画された。空中庭と 3.3m の大きな窓を設ける事で北側接道でありながら、光をふんだんに取り入れられる家となった。



5 | サンプルをもつ親子 茨城大学

老後の一人暮らしを想定するクライアントのための建替計画。バリアフリー、平屋等といった要望の中で特に賃貸アパートも一緒に建てて貸し出したい、という特徴があった。サンプルが設けられた施主の家とアパートを親子に見立て構成し、緩やかな関係性を生み出す。



第II期 家づくりスクール(2012年度)

第1回 2012.7.15

5組の受講生と5大学で、希望する家づくりに向けて家づくりスクールを開校。今回の家づくりスクールでは、敷地の中に、市の所有する保留地があったことが前回のスクールと異なる点である。第1回は顔合わせや敷地調査などをメインに行った。

第2回 2012.9.1

第2回の家づくりスクールでは、1回目のスクールでの受講生の希望に基づく住宅の設計図を学生が発表し、協議を行った。その後、寺内美紀子准教授(信州大学)が「八潮での家づくり」の講話を行った。

第3回 2012.10.21

3回目のスクールでは、最終回の家づくりスクールに向けて具体的な形が見えてきた。2回目のスクールでの提案に対する受講生の要望などが反映され、具体的に家をつくることの楽しさを、受講生だけでなく学生もわかってきた。

第4回 2012.12.2

家づくりスクール最終回。5つのグループが考えた住宅の最終提案の発表を行った。それぞれの班で受講者と学生とが打ち合わせを行い、敷地の読み込みから、周辺環境の取り込み方などを反映した、個性溢れる5案が仕上がった。

発表後は、受講生の方々に5大学の先生方から修了書が贈呈された。



▲家づくりスクールの様子(第2回)



▲家づくりスクールの様子(第4回)

1 | 庭とつながる家

日本工業大学

仕切りのない明るい家、自慢のガーデニングが室内から眺められる明るいリビング、といった要望を基に計画された住宅。リビングルームを庭に開くことで、内外をゆるやかにつなぐ心地よい空間を生み出し、風が通り抜ける空間となっている。



2 | 大テラスの家

神戸大学

広い庭を活かした開放的なリビングという要望と、南北に短く、東西に長い敷地の特徴を活かし、東西に長いリビングダイニングとした。インナーテラスを設けることで、庭を住宅内部にまで引き込むと共に、奥まで光を引き入れ、南側の庭をより広く取れる計画となっている。



3 | おおきな円側の家

東京理科大学

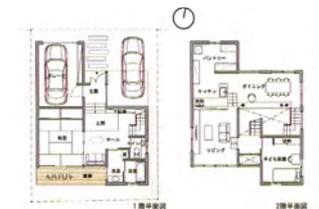
既存建物を残したまま敷地内に新たな住まいを建てる計画。母屋との行き来が気軽にできるようにという要望から、建物を少し斜めに配置することで、既存母屋と増築建物の中庭のようなスペースをつかった。円側はこの空間に新しい魅力を与え、母屋との程よい距離を保つことにもつながる。



4 | スキップフロアの家

神奈川大学

2世帯が暮らす住宅の計画。家族を感じながら料理をしたいという受講者の要望を受け、上下階を結ぶ場所にある「リビング・キッチン・ダイニング」は2世帯の生活を穏やかにつなぐ場とした。次世代への移行といった長期的な時間の変化に対応できる住宅とするための、重要な場所でもある。



5 | 風の通る家

信州大学

川に近く広い敷地を活かして、風を感じられる開放感のある家、という要望を基に計画された住宅。外から家の中へと続く空間を設け、内部に風の通り道をつくりだし、魅力的なアプローチ空間とすることで、ホールと一体となった広々とした空間となる。



やしお家づくりデザインマナーブック Yashio le Zukuri Design Manner Book

やしお家づくりデザインマナーブックとは？



▲表紙、目次のページ

魅力ある街並みづくりには、住まい手が主体的に街並み形成に取り組むことが大切。そこで、市民の方々と街並みの原点である「住宅」に着目し、八潮で家づくりを考えている人が楽しみながら家をつくることで街並み形成に取り組めるよう、「やしお家づくりデザインマナーブック」を作成した。

各章の紹介

1. 八潮らしく、家をつくるということ



▲5人の建築家の対談が掲載されている

「1. 八潮らしく、家をつくるということ」では、「八潮に住むことの魅力」から見てくる「八潮らしい家づくり」のヒントを、連携5大学の先生が述べている。家づくりの面白さから八潮の魅力、家づくりのコンセプトでもある『つながり』をどのように捉えるか、また八潮ならではの「家づくり」の楽しさなど、様々なテーマについてディスカッションしている。5人の建築家が感じる「八潮らしさ」が、議論を通して伝わってくる。

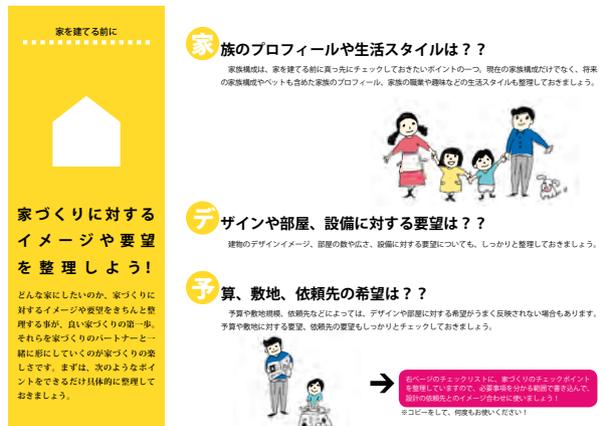
2. 八潮ではじめよう 家づくり



▲100年運動のことや八潮の魅力に触れられている

「2. 八潮ではじめよう 家づくり」では、『やしお家づくりデザインマナーブック』の生まれた背景や目的に触れつつ、市内での新生活を考えている方々に向けて八潮についての情報を提供している。交通や買い物の利便性や町工場のことなど8つの魅力を紹介している。

3. 家を建てる前に



▲家づくりを考える上での考えるべきことなどを紹介

「3. 家を建てる前に」では、家づくりに対するイメージを具体的にまとめていけるよう、様々なワークシートが掲載されている。八潮での情報収集の方法や法規制についても紹介している。

筑波大プロジェクト (ADP)

八潮エクスプローラーとは

八潮エクスプローラーとは、「八潮町並みづくり 100年運動」の一環として、八潮市の地域資源を調査し、資源を結びつける新たな活用方法や手法を検討した、筑波大学の「アート・デザイン・プロデュース (ADP)」という演習授業である。

筑波大学 ADP とは

筑波大学アート・デザイン・プロデュース (ADP) は、「アートやデザインを通して仕事やそれに関わる人をプロデュースする」ことを目的としている。

スケジュール

2010 年度の活動 ----- P.35 2011 年度の活動 ----- P.36 2012 年度の活動 ----- P.37

- リサーチ
- パブリックピクニック
- 八潮アロハ
- しょくにんインタビュー
- 八潮トイレンナーレ

- クールビズポロシャツ
- 夜市 (ブース出展)
- 鉄塔鉄美写真コンテスト
- 市民まつり (ブース出展)
- 八潮 photo vol.1

- クールビズポロシャツ・缶バッジ
- 夜市 (ブース出展)
- 鉄塔鉄美写真コンテスト～夏の陣～
- 市民まつり (ブース出展)
- 下妻街道の旅



▲これまでにプロデュースした事業

2010

リサーチ

Research

2010.5 - 9

パブリックピクニック

Public Picnic

2010.8 - 9

八潮アロハ

"Yashio Aloha"

2010.8 - 2011.2

しょくにんインタビュー

"Shokunin" Interview

2010.10 - 2011.2

八潮トイレナーレ

"Yashio Toirennale"

2010.11 - 2011.2

八潮アロハ
"Yashio Aloha"

2010.8 - 2011.2



▲ワークショップのチラシ

八潮らしさを発信する

八潮らしさを市内外へ発信することを目的としたアロハシャツを制作。ワークショップを通して、地域資源をモチーフとしたアロハシャツをデザインし、それを踏まえて学生が試作品を作成した。

しょくにんインタビュー
"Shokunin" interview

2010.9 - 2011.2



▲インタビューをまとめた冊子

食を発信する

食に関する地域情報をさらに充実させていくことを目的としたプロジェクト。八潮の食に関する「しょくにん」にインタビューを行い、食をつむいでいる人の姿から八潮の「しょく」の魅力を発信した。

八潮トイレナーレ
"Yashio Toirennale"



▲トイレナーレの活動をまとめたもの

八潮のトイレを考える

管理や設備の面で良い環境とはいえない市内にあるトイレを各地域の特徴に合わせて、面白くかつ使いやすくデザインすることで、公園の環境と共に住環境の向上をはかり、トイレの価値を再発見することを目的とした。

筑波大プロジェクト (ADP)

2011

クールビズポロシャツ

Cool Biz Polishirts

2011.5 - 9

夜市 (ブース出展)

"Yoichi"

2011.7

市民まつり (ブース出展)

"Shimin" Festival

2011.10

鉄塔鉄美写真コンテスト

Photography Contest

2011.11 - 2012.2

八潮 photo vol.1

"Yashio photo" vol.1

2011.11 - 2012.2

クールビズポロシャツ

Cool Biz Polishirts

2011.5 - 9



▲ポロシャツのデザイン案および実際に着用した際の様子

クールビズで資源のPR

八潮の資源をモチーフとしたクールビズポロシャツを制作。市役所員や学生が着用する事で、スーパークールビズ励行のイメージアップと共に資源のPRを行った。夜市では市民の方に向けて販売も行った。

夜市 (ブース出展)

"Yoichi"

2011.7



▲夜市の際の様子

夜市に出店、PR 活動

毎年、つくばエクスプレス八潮駅前広場で行われる夜市に「さろん・ど・やしお」という店名で出店した。主な内容はポロシャツ販売とワークショップ。多くの方々に来ていただき、活動の広報にもなった。

鉄塔鉄美写真コンテスト

Photography Contest

2011.11 - 2012.2



▲写真展のポスター

▲展示の様子

八潮写真コンテスト

八潮に多く見られる鉄塔の魅力を再発見するために、鉄塔を題材とした写真コンテストを開催した。多くの写真が出展され、八潮の魅力と鉄塔の美しさがいかに表現されているかを基に、審査が行われた。

クールビズポロシャツ・缶バッジ

Cool Biz Polishirts / Can Badge

2012.5 - 7

夜市（ブース出展）

"Yoichi"

2012.7 - 9

鉄塔鉄美写真コンテスト～夏の陣～

Photography Contest

2012.7 - 12

市民まつり（ブース出展）

"Shimin" Festival

2012.11

下妻街道の旅

A Travelling of "Shimotsumakaido"

2012.11

クールビズポロシャツ・缶バッジ

Cool Biz Polishirts / Can Badge

2012.5 - 7



▲学生がデザインした缶バッジ ▲八潮のオリジナルグッズ

八潮缶バッジ

前年度に引き続き、八潮市の資源を形にして市内外にアピールすることを目的とした、クールビズポロシャツを制作した。また新たな取り組みとして八潮の特徴をモチーフにした缶バッジの制作も行った。

鉄塔鉄美写真コンテスト～夏の陣～

Photography Contest

2012.7 - 12



▲コンテストの結果などをまとめた冊子と大賞作品

第2回八潮写真コンテスト

今年度で2回目を迎えた写真コンテストは、「鉄塔鉄美写真コンテスト～夏の陣～」として夏らしさと鉄塔のコラボレーションをテーマに作品を募集した。部門を増やし、規模を拡大しての開催となった。

下妻街道の旅

A Travelling of "Shimotsumakaido"

2012.11



▲調査の様子

下妻街道の旅

八潮市には、千住から下妻を結ぶ下妻街道が横断している。八潮から下妻まで約50kmを自転車で行き、五感で下妻街道を感じ、魅力や観光ルートの再発見、下妻街道をきっかけとした交流を目的に調査を行った。

まちづくりフォーラム

まちづくりフォーラムは、八潮街並みづくり 100 年運動の活動をはじめとする、様々なまちづくりに関する取り組みの発表の場として、毎年開催された。その年度毎の活動報告や、提案事業を市民の方々に発信し、来場者は毎回 100 名を超えている。

市民の方々と、八潮におけるまちづくりの取り組みについて意見を交わし、共有することで次の活動へとつなげていくことができた。

第 1 回まちづくりフォーラム

「～八潮らしい

魅力ある街並みを発見～」



平成 20 年 9 月 15 日 (祝)

プログラム

1. 基調講演

「住まいづくりと街づくり」

曾我部 昌史氏 (神奈川大学教授)

2. プレゼンテーション

子どもがつくる「住んでみたい家」

3. ディスカッション

「八潮の特徴と住まい方」の提案

連携 5 大学

茨城大学

神奈川大学

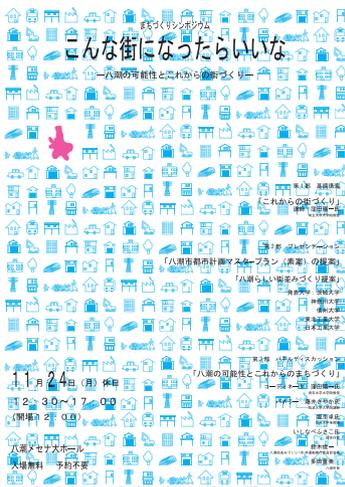
信州大学

東北工業大学

日本工業大学

第 2 回まちづくりフォーラム

「こんな街になったらいいな～八潮の可能性とこれからの街づくり～」



平成 20 年 11 月 24 日 (祝)

プログラム

1. 基調講演

「これからの街づくり」

窪田 陽一氏 (埼玉大学大学院教授)

2. プレゼンテーション

「八潮市都市計画
マスタープラン (表案) の提案」

「八潮らしい街並みづくり提案」

連携 5 大学

3. パネルディスカッション

「八潮の可能性と
これからのまちづくり」

第 3 回まちづくりフォーラム

「～家づくりからはじめる街並みづくり～」



平成 21 年 11 月 22 日 (日)

プログラム

1. プレゼンテーション

「～家づくりからはじめる街並みづくり～」

連携 5 大学

2. パネルディスカッション

「八潮の特徴と
住宅モデルの取り組みについて」

パネリスト

小川 次郎氏 (日本工業大学教授)

坂牛 卓氏 (信州大学教授)

曾我部 昌史氏 (神奈川大学教授)

槻橋 修氏 (神戸大学准教授)

寺内 美紀子氏 (茨城大学准教授)

第 4 回まちづくりフォーラム

「八潮のまちの魅力と可能性を探る」



平成 22 年 2 月 28 日 (日)

プログラム

1. プロジェクト報告

「八潮らしさと家づくり」
小川 次郎氏 (日本工業大学教授)

2. 市民によるまちづくり提案

「八潮市商工会青年部による
駅前南口公園計画の提案発表」

荒井 歩氏 (東京農業大学講師)

3. 基調講演

「魅力あるまちづくり」
渡 和由氏 (筑波大学大学院准教授)

4. 会場の皆さんとの意見交換会

第5回まちづくりフォーラム
「オンリーワンの街づくり
八潮をデザインする」

オンリーワンの街づくり
八潮をデザインする



第5回まちづくりフォーラム
日 時：平成23年02月27日(日) / 13:30-16:00(開場13:00)
会 場：八潮メッセ・アネックス(八潮駅南口)
第一セッション 13:40-14:40
第二セッション 15:00-16:00

平成23年2月27日(日)

プログラム

1.プレゼンテーション

「八潮駅前公園基本計画について」
連携5大学・株式会社トデック
「八潮の資源と
活用プロジェクトの提案発表」
筑波大学ADP・

渡 和由氏(筑波大学大学院准教授)

2.パネルディスカッション

「駅前公園の魅力と可能性」
槻橋 修氏・坂牛 卓氏・
曾我部 昌史氏・渡 和由氏・
中村 悟氏(株式会社トデック代表
取締役社長)

第6回まちづくりフォーラム
「やしおのツカイカタ」



第6回まちづくりフォーラム
「やしおのツカイカタ」

平成24年3月11日(日)14:00~17:00(開場13:30)
八條公民館2階 大ホール(八潮市大学八條2753-46)

内容

- 第1セッション「八潮エクスプローラー」提案発表
筑波大学ADP
- 第2セッション「やしおのツカイカタ」提案発表
筑波大学ADP・渡 和由氏(筑波大学大学院准教授)
- 第3セッション「八潮周辺地区景観プロジェクト」提案発表
東京農業大学

平成24年3月11日(日)

プログラム

1.プレゼンテーション

「八潮エクスプローラー」提案発表
筑波大学ADP
「やしおのツカイカタ」提案発表
連携5大学
「中川周辺地区
景観プロジェクト」提案発表
東京農業大学

第7回まちづくりフォーラム
「やしおの街力
- 求められる都市とは -」

第7回まちづくりフォーラム
やしおの街力
一求められる都市とは-

日 時：平成25年2月3日(日)13:30-16:20(開場13:10)
会 場：八潮メッセ・アネックス本館ホール(八潮駅南口)
入 場：無料

第1部 プレゼンテーション① 13:30-14:00
第2部 プレゼンテーション② 14:00-16:00

第1部 プレゼンテーション①
●やしおの街力について、2023年の街力調査結果を踏まえて、まちづくりの方向性を示す。
●地域資源の活用プロジェクトの概要
●やしおの街力デザインブックについて

第2部 プレゼンテーション②
●まちのツカイカタ プロジェクトの進捗報告
●まちのツカイカタ プロジェクト
●まちの街力デザインブックについて

平成25年2月3日(日)

プログラム

1.プレゼンテーション

「やしおのツカイカタ」
連携5大学
「地域の資源活用プロジェクト」
筑波大学ADP
「中川地区周辺景観プロジェクト」
東京農業大学
「やしお家づくり
デザインマナーブック」
八潮都市デザイン課
2.パネルディスカッション
「やしおの街力
- 求められる都市とは -」

第8回まちづくりフォーラム
「地域資源の可能性を探る」

第8回まちづくりフォーラム
地域資源の可能性を探る

日 時：平成26年2月9日(日)
13時30分~16時00分(開場13時10分)
会 場：八潮メッセ・アネックス(八潮駅南口)
入 場：無料

第1部 プレゼンテーション① 13:30-14:00
第2部 プレゼンテーション② 14:00-16:00

第1部 プレゼンテーション①
●中川周辺地区における景観プロジェクトの進捗報告
●やしおのツカイカタ プロジェクトの進捗報告
●まちの街力デザインブックについて

第2部 プレゼンテーション②
●まちの街力デザインブックについて
●まちの街力デザインブックについて

平成26年2月9日(日)

※雪のため中止

プログラム

1.プロジェクト報告

「中川周辺地区における
景観プロジェクト」
東京農業大学
「やしおのツカイカタ」
連携5大学
「既成市街地における緑化による
街路環境の改善」
埼玉大学
「カラフルタウン八潮」
一般社団法人住宅生産団体連合会
まちなみ環境委員会
まちな・み力創造研究会

運動を振り返って



小川 次郎

O g a w a J i r o

日本工業大学
工学部建築学科教授

日本工業大学百年記念館/
ライブラリー&コミュニケーションセンターで日本建築学会作品
選奨(2010)を受賞



坂 牛 卓

S a k a u s h i T a k u

東京理科大学
工学部建築学科教授

建築設計事務所 O.F.D.A.associates を共同設立(1988)
リーテム東京工場 international architectural award2007 /角窓
の家 日本建築家協会優秀建築選(2007)など受賞



曾我部 昌史

S o g a b e M a s a s h i

神奈川大学
工学部建築学科教授

建築設計事務所「みかんぐみ」を共同設立(1995)
住宅、保育園、ライブハウスの建築設計から家具、プロダクト、
インスタレーションまで幅広いデザインを手がける。

まちづくりにゴールはない

「まちづくりにゴールはない。考え続け、つくり続けることに意義がある。」あたりまえの話であるが、7年間の活動を振り返って、あらためてそう感じている。まちに住む人びとの成長に歩みを合わせるように、まちも成長を続けるのだと思う。その過程で、不具合や不都合が生じたら手を入れてゆく、人びとの暮らしぶりや意識が変化し、新たなものが必要になったら付け加えてゆく。そして、まちに暮らす市民や行政がそのことに取り組むのももちろん、少し違った立場や視点をもつ様々な人びと - 例えば大学の学生や先生など - をそこに巻き込むことで、まちの豊かささらさら厚みを増してゆくのではないか。私たち連携5大学研究室も、これまで具体的な建築プロジェクトから制度設計まで、いろいろなかたちで八潮のまちづくりに関わらせて頂いた。21世紀のまちづくりを見据えて、こうした仕組みを丁寧に作り上げ、継続されてきた(これは全国的に見ても胸を張れる、画期的な試みだと思う)八潮のみなさんに、心より敬意を表したい。

ヤシオ・サポーターとして

個人的にも、この7年の間というもの、実によく八潮に通わせて頂いた。もちろん、市民のみなさんとのワークショップやいろいろなお祭りへの参加、役所との打合せなど、その時々々の用事もあったのだが、そのことを別にしても八潮には何か惹きつけられるものがあつた。水や緑が多いことによる独特の開放感?人びとのゆったりとした雰囲気?緑地や農地、住宅、工場など様々な表情をもった街並み?多分、そうしたものすべてがブレンドされた心地良いゆるやかさが、「八潮らしさ」につながっているのだと思う。こんな楽しさに満たされたまぢの姿を、市民のみなさんだけでなくあらゆる人びとに伝え、届ける運動をこれからもずっと続けて頂きたいと、ヤシオ・サポーターの1人として切に願っている。

遠そうで近い場所

八潮に最初に来たのはだいぶ前のことである。市役所に案内されて市長の町づくりへの心意気を拝聴した。市役所の上階にある部屋から外を見ると平らな町が広がっていた。ああいぶ遠くに来たなど感じた。都心のビルの狭間に暮らして10年以上もたつので平らな大地は妙に遠方に感じられた。しかしその後幾度となく通い、自転車で街歩きをしてみるとどうもこれは懐かしい場所だと感じるようになってきた。そもそも自分が生まれ育った東京の練馬区は大根の産地として有名で、23区の中では畑がたくさんあつた。誰の所有地かわからないような空き地がたくさんあり格好の遊び場となっていた。どうも八潮はそんな自分の育った記憶の中の一部が再現されているように見えてきた。遠く思えた風景は記憶の中のすぐそこにあつたというわけである。

皆で考える楽しさ

八潮に最初に来たとき自分はまだ教師になって数年目であつた。学生を教えるのにやっとな頃で学生と一緒に何かを作るなどという状態ではなかつた。ところがここで我々は学生とも他大の先生とも価値観を共有させながらもの作りを始めたのである。これはなかなか勇敢な試みであつたと思う。一体どこまでうまくいくのだろうかと疑心暗鬼だったのだが、これが様々な良い結果を生み出していた。皆で考えることはともすると妥協の産物になるのだが、ここでは多くのことがプラスに働き質の高いたくさんの案を生み出した。それらは学生の力量を示すと同時に指導する先生方の知恵の発露でもあつた。そんな案を厳選して市民の意見も交えながら行う町づくりはそうそうできるものではない。これが可能となつたのは5つの大学が集結したからで、もう一つは長く続けてきたからである。この貴重な関わりをさらに継続して(できれば100年)いければと願っている。

ネガティブな要素は本当にネガティブか?

風景に人工的な印象を加える鉄塔の列、匂いが気になる水路網、機械音が漏れ出す町工場群。八潮の風景の特徴であるこれらの要素は、多くの場合、景観や暮らしやすさを損なうネガティブな要素として捉えられやすい。デザインの現場では、鉄塔から目をそらし、水路を暗渠化し、町工場から距離をおくような対応が選ばれる。八潮での私たちの試みは、そういったスタンスとは正反対である。つまり、鉄塔をランドマークとして位置づけ、豊かな景観の一部としての水路を取り戻し、町工場の活力を取り込むような住宅地を構想した。こういったスタンスは、この先のまちづくりに特に重要なのではないかと思う。常識と位置づけられている評価軸をいったん棚上げにして、その地域の持つ特性をポジティブに活かす方法を考える。そうすることで、どこにでもある同じような雰囲気のある街ではなく、その地域特有の魅力をつくりだすことが可能になるのではないだろうか。

創発を生む協同

5大学の学生たちが協同して検討を進めることが、このプロジェクトの個性を生む。混成チームをつくり協同で一つの提案をまとめることもあれば、各大学がそれぞれの案をもちよりアイデアを競わせることもある。協同の仕組みにも工夫が重ねられる。T郎の設計においては、南面に対する考え方が提案されたことで外形が大きく変わり、結果として特徴的な外観を得ることとなった。また、学生たちのセルフビルドによる家具や庭や茶室や露地のデザインでは、不思議な競演が予想を超えたアイデアの集積を得た。大学毎に担当部位を分けて検討をしていたのだが、互いのデザインに意識を向けながら、それぞれの独創性を発揮しようと努めた結果だろう。いつものやり方では、この先の建築設計の可能性を矮小化してしまうに違いない。協同の仕組み次第では、新たな創発的デザイン環境が得られるのである。



槻橋 修

Tsukihashi Osamu

神戸大学

工学研究科建築学専攻准教授

ティールハウス建築設計事務所を設立(2002)
「建築ノート」など数多くの建築に関する書籍を監修。



寺内 美紀子

Terauchi Mikiko

信州大学

工学部建築学科准教授

寺内美紀子建築設計事務所(2003~2005)
人人ニュータウンひたち野中央「脱・都会派の夢」くらしと住まいのコンクール優秀賞を受賞(2001)



渡 和 由

Watari Kazuyoshi

筑波大学

環境デザイン領域准教授

1990年に渡米、米国のランドスケープ・アーキテクチャと建設設計事務所での米の都市や住宅地の計画実務を行う。
98年に帰国後、現職に。

大きな変化の中で

八潮に通い始めてからの7年間、街は来るたびに変化していた。そもそもこの運動が始まった経緯がつくばエクスプレス開通により八潮に初めて駅ができ、駅前が誕生したことにあるのだから当然とも言えるが、八潮にとって大変貴重な時期に学生達と通わせていただいたことになる。ピカピカのTXに乗って八潮駅から八潮に入り、先生方や学生達と自転車に乗って町中を走りまわって出会ったのは、八潮に流れる時間が醸成させてきた伸びやかな郊外都市の風景だった。細い路地の入り組んだマスクメロン街区や、町工場が並ぶ光景、人々の水との格闘の記憶を感じさせる水路や河川敷は、そして可愛らしい小松菜畑は、どれも大都会の真ん中では得られないホッとする空間だった。どんどん便利に、けれども画一的になっていく日本の街の中で、八潮の空間の美しさにみんなが気づくようになる日は遠くないと思う。その日まで、八潮はTX沿線における「懐かしい場所」であってほしい。

スローなまちづくり

こうした八潮の魅力に誘われて、5大学連携の活動も自由な空気の中で活動させていただいた。毎年、八潮の魅力について大学間で意見を出し合い、市民の皆さんと家づくりに挑戦したり、公園づくりに取り組んだり、活動当初では想定できなかったような創造的なまちづくりの方法を学ばせていただいた。駅前を中心に進んでいる急速な変化を八潮全体で柔軟に受け止めながら、この街が昔から身につけてきた<八潮のペース>に巻き込んでいく。みんなにとって住みやすい街にするために、一刻も早く取り組むべき課題も少なくないだろう。しかし人々が愛着を持っている街並みの創造に関しては、短期間の成果にばかりこだわることではない、長期熟成のスローなまちづくりこそ「八潮らしいまちづくり」なのだと思う。その意味で100年運動の「100年」は伊達じゃない、とあらためて感じている。

八潮とはどこか

東京を直交座標の4象限に区切ると、第1象限に江戸がすっぽり入ってしまう。住宅地である山の手は西に、下町の職人街や様々な手工業は北に伸びていった。結果、北に位置する八潮のような水運に恵まれた地域は、江戸時代からあらゆる物資を都心に供給する街となった。つくばTXにより、今度は、のんびりとした緑の多い暮らしを供給している。八潮とは与えることの尽きない豊かな場所なのだと思う。こうした豊かな郊外によって都心は成り立っているのだと、八潮に来るようになって、今更実感した。一方、八潮のなかで八潮をどのように見だせばよいのか、これはなかなか一筋縄ではいかない問題であった。おおげさな言い方だが、近代以降の発展と衰退のなかで、日本人の生活や家族の変様がそのまま刻まれてきたかのような都市空間が、八潮にはあると感じた。八潮のような街はめったにないという感覚と、日本のいたるところに八潮はあるという感覚の共存である。この2つの感覚を往き来しながら、少しずつ八潮に詳しくなることができた。

八潮の感性

7年間にわたって、市民フォーラムやワークショップに参加し、連携大学の先生、研究室のみなさんと協同でき本当に楽しかった。初めの4年間は土木系の学科に在籍していたこともあり、土木構築物に着目するのに八潮はうってつけのフィールドで、学生もやりやすかったと思う。高架下や河川敷と田園のスケールが絶妙にマッチし、住宅スクールでもこうした八潮の特徴がモチーフになった。地元の製作所や工場にもご協力頂き、実際に色々なものをつくられたことは大きな成果と自負している。地元のみなさんの持つ、たくましさやユーモアに支えて頂いたからこそ実現できたプロジェクトばかりであった。こうした八潮の感性に心から感謝している。

八潮のまちを、エクスプローラー

私達、筑波大学では、芸術専門学群と大学院生が協働して実践的な演習を行う「筑波大学アート・デザイン・プロデュース(ADP)」として、自治体や大学で様々な提案や活動をする取り組みを行っている。八潮においては、平成22年から平成24年の3年間、ADPの一環で「八潮エクスプローラー(八潮探検隊)」として参加した。活動全体を振り返ると、1年目に基礎的な視点を得る活動として、まちを歩いて、座って環境資源を確認する「八潮パブリックピクニック」や、伝統産業と地域資源を身につける提案である「八潮アロハ」、農業や公衆トイレの可能性を探る提案の活動を行った。2年目は、環境と歴史的な資源をデザインした「地域のクールビズポロシャツ」、写真による地域資源の視覚化と市民参加を目指した「鉄塔鉄美写真コンテスト」、その成果と活動過程をまとめた冊子「八潮 photo」として発展させた。3年目は、市役所の若手職員も参加したポロシャツ製作、まちの資源をキャラクター化した「まち缶バッジ」、夏の風景を撮る鉄塔写真コンテスト、下妻街道を自転車で旅する「八潮発下妻街道の旅」などを行った。

八潮での活動を活かして

このように、八潮エクスプローラーでの3年間の活動は、小さな発想から、市民の方々、子供達、様々な方々が楽しく参加できること、みんなが笑顔になることの手助けができたと思う。今でも、いろいろな楽しい活動が街中で起こっている場面が浮かんでくる。私達は八潮を離れたが、八潮から下妻まで自転車で走った経験を活かして、霞が浦やつくば市での自転車を活かす活動を行っている。八潮街並づくり100年運動の成果が、まちの体験価値をみつめて、市民で共有する今後の市民活動のヒントになると幸いである。

7年間の活動参加者

平成 20 年度

茨城大学 (寺内)
上田 学
立原 稔
鈴木 覚
窪谷 浩之
田原 佑介
戸島 健貴
瀨宮 文子

神奈川大学 (曾我部)
豊田 久美子
平野 昭隆
水野 清昌
山本 朝海
石川 信光
小金丸 信洋
畑中 洋介

信州大学 (坂牛)
兼子 晋
平岩 宏
倉倉 和洋
小日向 由香
小宮 真美
尾川 翔美
香川 美帆
高木 幸介
田中 邦佑
藤岡 佑介

東北工業大学 (槻橋)
小原 淳
武留 千博
福島 直人
森谷 哲郎

日本工業大学 (小川)
高桑 広太郎
木村 優弘
松下 和志
谷中 藤洋
佐富 広元
松谷 祐司
飯野 旭
江利川 豊隆
小山 大島 哉雅
大橋 耶

平成 21 年度

茨城大学 (寺内)
鈴木 覚
窪谷 浩之
戸島 健貴
瀨宮 文子
大友 彰
川友 樹
千葉 昌
宮千 友
葉紀
古川 このみ

神奈川大学 (曾我部)
水野 清隆
山本 弘光
小金丸 史
竹下 朝介
中村 洋介
畑中 香織
久保 真美
佐々木 真涉

信州大学 (坂牛)
小倉 和洋
竹田 恒平
藤岡 幸介
朝日 大和
西浦 皓和
西林 秀

東北工業大学 (槻橋)
福島 直人
工藤 志博
小林 知大
村中 大慶
高橋 行廣
大蔵 明

日本工業大学 (小川)
高桑 広太郎
佐藤 洋平
富松 広和
松下 元也
村口 由一
野田 祥治
岡田 誠賢
木梨 賢一
小林 章
村高 章
橋早 章
川平 剛
井涌 義領

平成 22 年度

茨城大学 (寺内)
戸島 建貴
瀨宮 文子
大友 彰
川友 樹
千葉 昌
宮千 友
葉紀
古川 このみ

神奈川大学 (曾我部)
木下 和之
宮坂 夏雄
宮西 亮
西浦 貴政
早瀬 正敏
古川 真希

信州大学 (坂牛)
田中 邦幸
朝日 大和
西浦 皓和
西林 秀

神戸大学 (槻橋)
薫岡 静
片岡 起
坂本 大
友名 憲
村徳 知
徳早 貴
川原 智
三浦 尚
谷田 尚
山秋 尚

日本工業大学 (小川)
高桑 広太郎
富野 一也
谷村 由典
山口 賢史
小高 敦
橋井 聖
安藤 聖
伊藤 歩
岡今 昌
高崎 文
高橋 領
小安 聖
伊藤 聖
田土 聖
野廣 聖
皆佐 聖
武戸 聖
藤谷 聖

平成 23 年度

茨城大学 (寺内)
大友 彰
川友 樹
千葉 昌
瀨宮 文子
大友 彰
川友 樹
千葉 昌
瀨宮 文子

神奈川大学 (曾我部)
井土 稔
立川 愛
田村 雅
源 哉
菊井 希
望月 央諭

東京理科大学 (坂牛)
飯田 侑希
石河 誠寬
河添 優
堀江 太里
山田 芽

神戸大学 (槻橋)
岡崎 大
片岡 憲
坂友 貴
村徳 早
川原 三
三浦 押
谷田 山
山秋 小川

日本工業大学 (小川)
高桑 広太郎
岡崎 昌也
今高 文
高橋 領
小安 聖
伊藤 聖
田土 聖
野廣 聖
皆佐 聖
武戸 聖
藤谷 聖

平成 24 年度

信州大学 (寺内)
今城 絵美
京谷 奈津
高野 拓生
原南 麻勇

神奈川大学 (曾我部)
内山 雄
源高 真
下見 準
高岡 由
高橋 恭
高橋 陸

東京理科大学 (坂牛)
中川 宏
堀江 優
小林 翔
岡元 俊
飯村 悠
野村 季
加瀬 沙
中東 史
永本 達
則本 祐
山下 佳
山田 晃

神戸大学 (槻橋)
村岡 幹
小川 紘
中村 秋
阪本 昌
猪部 則開

日本工業大学 (小川)
高桑 広太郎
安藤 聖
藤木 誠
伊藤 賢
小田 大
田土 勇
廣黒 海
黒小 祥
義見 貴
佐飯 樹
藍飯 洋
田内 弘
久保 充
西川 健
田保 太
部 幸
西 人
川 美

平成 25 年度

信州大学
(寺内)

山本 十雄馬
今城 美津生
高野 拓麻由
南 江次雄
大北 沢勇次
野崎 健太郎
本 田 綾香
上 田 世志郎

神奈川大学
(曾我部)

中村 慧睦
望月 諭夏
伊藤 美二
田邊 裕太
柳 健太郎

東京理科大学
(坂牛)

程岡 鵬
崎 俊介
金子 宏文
中川 東文
中本 壮子
山田 奈弘
大下 総一郎
押川 幸子
菅谷 由香
田中 比呂
半田 紀佳
藤坂 美香
松浦 有香
宮前 淳司

神戸大学
(槻橋)

小川 紘司
村本 秋香
阪里 昌則
猪部 俊裕
大野 開明
小池 晴真
楠目 真晃

日本工業大学
(小川)

黒澤 祥貴
小林 登樹
小池 野充
義見 春弘
藍場 健太
内田 祐介
久保 田 樹
小松 田 一
坂田 健翼
高木 光治
種市 直人
西舘 春樹
村井 優樹
渡辺 優也

平成 26 年度

信州大学
(寺内)

今城 美津生
高野 拓麻由
南 江次雄
大北 沢勇次
野崎 健太郎
本 田 綾香
上 田 世志郎
出田 子央
大村 亮奈
福嶋 公史
松原 昂

神奈川大学
(曾我部)

望月 諭
菊井 悠央

東京理科大学
(坂牛)

藤坂 美佳
宮前 淳司
程 鵬
井 黒
村 田 真里恵

神戸大学
(槻橋)

猪部 開
大野 晴
角谷 早
有 一
小川 亜
小松 昌平

日本工業大学
(小川)

小池 佑樹
藍場 弘充
内田 健太
久保 田 介
岩崎 哲也
氏内 洋基
大野 花
押田 勇由
田端 瞭
山中 瑞
野見 友香
初崎 香

八潮街並みづくり 100 年運動実行委員会

実行委員会

【平成 20 年度】
会 長：鈴木 俊一
副会長：松田 温昭
会 計：小澤 政人
監 事：松澤 利二
山崎 知之

【平成 21 年度】
会 長：鈴木 俊一
副会長：松田 温昭
会 計：小澤 政人
監 事：深井 章
山崎 知之

【平成 22 年度】
会 長：齋藤 勝
副会長：松田 温昭
会 計：齋藤 順一
監 事：深井 章
山崎 知之

【平成 23 年度】
会 長：齋藤 勝
副会長：松田 温昭
会 計：齋藤 順一
監 事：小倉 光
山崎 義和

【平成 24 年度】
会 長：齋藤 勝
副会長：松田 温昭
会 計：齋藤 順一
監 事：小倉 光
山崎 義和

【平成 25 年度】
会 長：齋藤 勝
副会長：齋藤 順一
会 計：山崎 健
監 事：小林 義和
江刺 博賢

【平成 26 年度】
会 長：齋藤 勝
副会長：齋藤 順一
会 計：山崎 健
監 事：岡 薫
江刺 博賢

顧 問 八潮市長 多田 重美 (H.20 - H25.8)
八潮市長 大山 忍 (H25.9 -)

幹事会

【平成 21 年度】
幹事長：豊田 裕之
副幹事長：渡辺 清
幹事会員：水谷 勲
中川 盛弘
北川 盛賢
狩野 勉
野田 勉
高木 哲男

【平成 22 年度】
幹事長：豊田 裕之
副幹事長：渡辺 清
幹事会員：水谷 勲
中川 盛弘
小林 義和
山木 知二
中島 陽一
田中 陽
久保 芳男
高木 哲男

【平成 23 年度】
幹事長：水谷 勲
副幹事長：松井 博
幹事会員：江刺 秀義
海老原 義和
小林 陽一
山木 勉
中島 喜一郎
田中 誠
會田 弥
村上 哲男
高木 哲男

【平成 24 年度】
幹事長：水谷 勲
副幹事長：松井 博
幹事会員：江刺 秀義
海老原 義和
小林 陽一
山木 真一
中島 真一
岸古 誠
村上 喜一郎
會田 喜一郎

事務局 八潮市 都市デザイン課 都市デザイン係

部会

【平成 20 年度】
部会長：稲田 公之
副会長：柳田 裕
部会員：豊田 昭彦
平岩 征孝
大本 和成
河原 間
古庄 河原 元

【平成 21 年度】
部会長：垣古 公之
副会長：浅古 博賢
部会員：江刺 家
近藤 昭彦
大澤 良温
本島 和美
古内 元
柳町 光章

【平成 22 年度】
部会長：垣古 公之
副会長：浅古 博賢
部会員：江刺 家
近藤 昭彦
大野 孝
野島 繁
村省 友三
古庄 美
内庄 元
久保 海 光
久保 有 香

YASHIO BEST 八潮街並みづくり 100 年運動 2008 - 2014

平成 27 年 3 月発行

製作・編集 神奈川大学 曾我部研究室
神戸大学 槻橋研究室
信州大学 寺内研究室
東京理科大学 坂牛研究室
日本工業大学 小川研究室

監修 小川 次郎 (日本工業大学教授)

編集協力 本田 世志郎 (信州大学)
村田 真里恵 (東京理科大学)

発行 八潮街並みづくり 100 年運動実行委員会